

仙台市高齢者保健福祉計画策定のための 実態調査報告

－調査項目ごとの集計結果－

平成 26 年 1 月

仙台市健康福祉局保険高齢部高齢企画課

目 次

I. 調査の概要

II. 調査項目ごとの集計結果

1. 調査対象者の属性	3
2. 健康状態について	7
3. 楽しさ・生きがいについて	9
4. 仕事について	10
5. 社会参加の状況と社会貢献について	11
6. 日常生活について	13
7. 外出について	14
8. 買い物について	17
9. 住宅、住み替え意向について	19
10. 本人・世帯の年間総収入について	21
11. 介護保険料について	22
12. 介護保険制度について	26
13. 地域包括支援センターについて	29
14. 高齢者福祉サービスについて	31
15. 介護予防について	36
16. 認知症対策について	39
17. 地域包括ケアシステムの構築について.....	42
18. 健康や福祉について	43
19. 高齢者虐待防止について	44
20. 孤立死について	45
21. 災害時の安否確認について	47

I. 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、65歳以上の高齢者の生活実態や、社会参加、生きがい等に関する状況や意識、介護サービスや高齢者福祉サービスの利用動向及び今後の利用意向を把握し、次期高齢者保健福祉計画（計画期間：平成26年度～平成28年度）の策定にあたっての基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査設計

	【高齢者一般調査】
調査対象者	平成25年10月末時点において、仙台市介護保険被保険者資格を有している高齢者（約212,000人）から、介護保険事業計画策定のための実態調査の対象者として抽出された方を除いて無作為抽出した5,000人
調査方法	調査対象者に調査票を郵送し、返送していただくもの
調査基準日	平成25年11月1日
調査期間	平成25年11月7日～平成25年11月27日
調査項目	○調査対象者の属性（問1～5） ○健康状態について（問6～7） ○楽しさ・生きがいについて（問8） ○仕事について（問9～10） ○社会参加の状況と社会貢献について（問11～15） ○日常生活について（問16） ○外出について（問17～21） ○買い物について（問22～24） ○住宅、住み替え意向について（問25～27） ○本人・世帯の年間総収入について（問28～29） ○介護保険料について（問30～34） ○介護保険制度について（問35～39） ○地域包括支援センターについて（問40～42） ○高齢者福祉サービスについて（問43～46） ○介護予防について（問47～51） ○認知症対策について（問52～54） ○地域包括ケアシステムの構築について（問55） ○健康や福祉について（問56～57） ○高齢者虐待防止について（問58） ○孤立死について（問59～60） ○災害時の安否確認について（問61～62） ○仙台市への意見・要望について（自由記述）（問63）

3. 回収結果

標本数	総回収数	無効回収数	有効回収数	有効回収率
5,000	3,232	3	3,229	64.6%

※ 無効回収数は、白票またはほぼ白票のもの。

4. 報告書の見方

- (1) グラフのNとは回答数を表すものであり、質問によって異なる場合がある。
- (2) 回答の構成比は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、単一選択式の質問においては、回答比率を合計しても100%にならないことがある。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数選択式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。

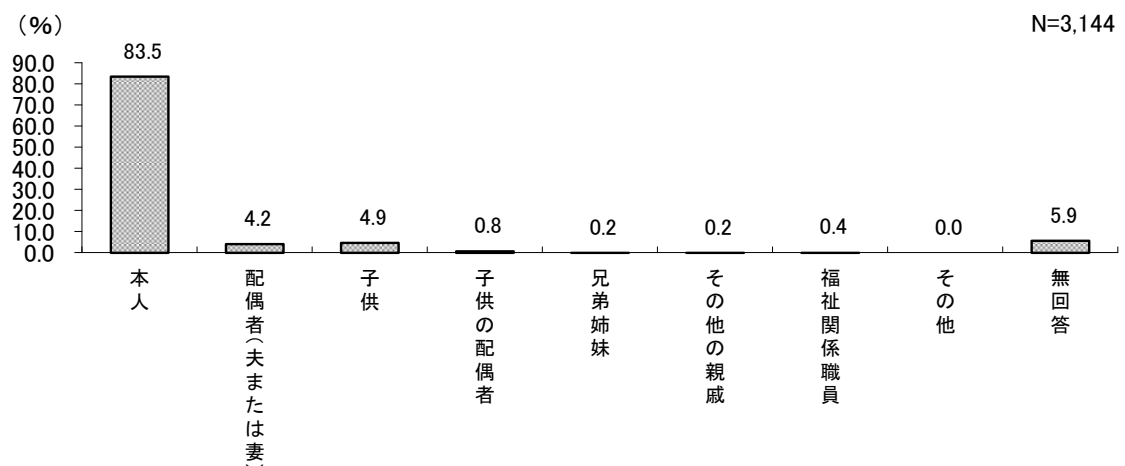
Ⅱ. 調査項目ごとの集計結果

1 調査対象者の属性

1－（１）調査票の記入者

問１ この調査票を記入なさっている方は、ご本人から見て、どなたにあたりますか。
ご本人から見た続柄等でお答えください。（あてはまるもの 1 つに○）

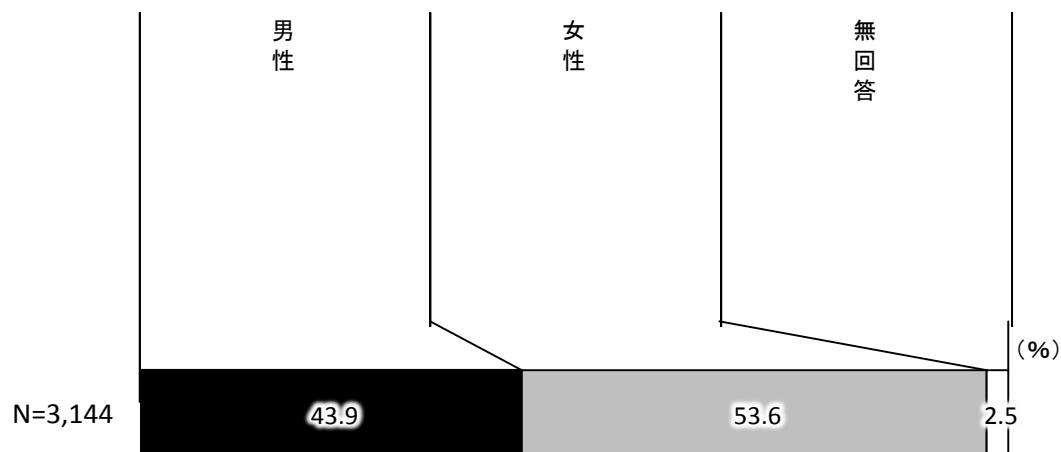
○回答者は、「本人」が 83.5%を占めて最も多く、次に「子供」（4.9%）、「配偶者（夫または妻）」（4.2%）が続いている。



1－（２）性別

問２ ご本人の性別をお答えください。（あてはまるもの 1 つに○）

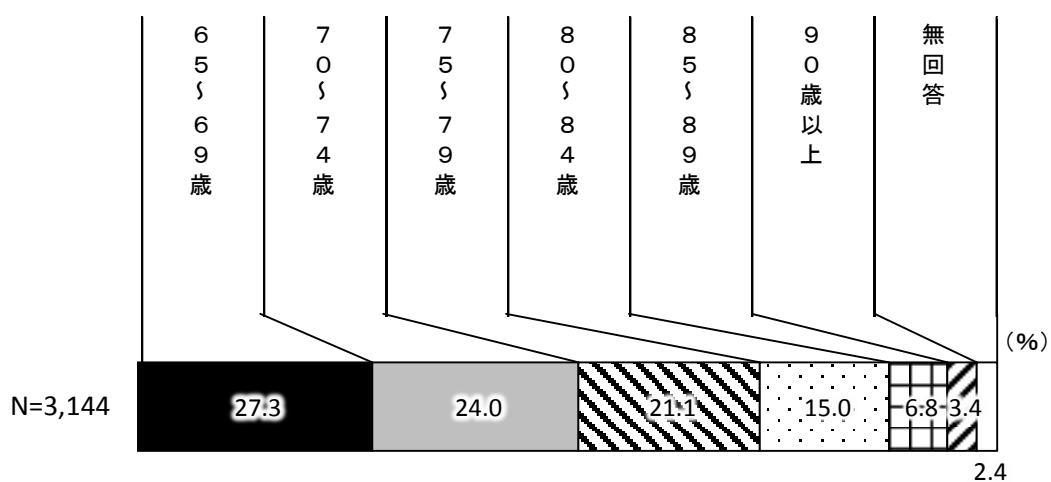
○本人の性別は、女性が 53.6%を占めている。



1－（3）年齢

問3 ご本人の年齢をお答えください。（あてはまるもの1つに〇）

○本人の年齢は、「65～69歳」が27.3%を占めて最も多く、次に「70～74歳」が24.0%が続いており、これらを合わせた『65～74歳』の前期高齢者が51.3%を占めている。



前期高齢者	後期高齢者
51.3%	46.3%

※前期高齢者とは、65歳以上75歳未満の高齢者、
後期高齢者とは、75歳以上の高齢者のことをいう。

1－（４）現在お住まいの地域

問４ 現在お住まいの中学校区を教えてください。（あてはまるもの１つに○）
（お近くの中学校をお選びください。わからない場合は町名を記入してください。）

〈 青 葉 区 〉 26.7

1. 五橋中	2.5	5. 北仙台中	2.2	9. 三条中	1.7	13. 中山中	1.8
2. 大沢中	1.0	6. 広陵中	0.5	10. 第一中	2.3	14. 広瀬中	2.1
3. 折立中	1.2	7. 五城中	1.6	11. 第二中	1.6	15. 南吉成中	1.0
4. 上杉山中	1.6	8. 桜丘中	2.2	12. 台原中	2.7	16. 吉成中	0.7

〈 宮城野区 〉 16.1

17. 岩切中	1.6	20. 田子中	0.7	23. 中野中	1.3	26. 宮城野中	2.7
18. 幸町中	1.3	21. 鶴谷中	2.2	24. 西山中	1.8		
19. 高砂中	1.5	22. 東華中	1.3	25. 東仙台中	1.7		

〈 若 林 区 〉 10.3

27. 沖野中	1.7	29. 七郷中	1.1	31. 南小泉中	2.5
28. 蒲町中	1.5	30. 八軒中	2.0	32. 六郷中	1.5

〈 太 白 区 〉 23.1

33. 秋保中	0.5	37. 富沢中	2.1	41. 人来田中	1.2	45. 柳生中	1.5
34. 愛宕中	1.0	38. 中田中	1.7	42. 袋原中	2.2	46. 山田中	1.9
35. 生出中	0.3	39. 長町中	3.3	43. 茂庭台中	0.8		
36. 郡山中	2.1	40. 西多賀中	1.7	44. 八木山中	2.8		

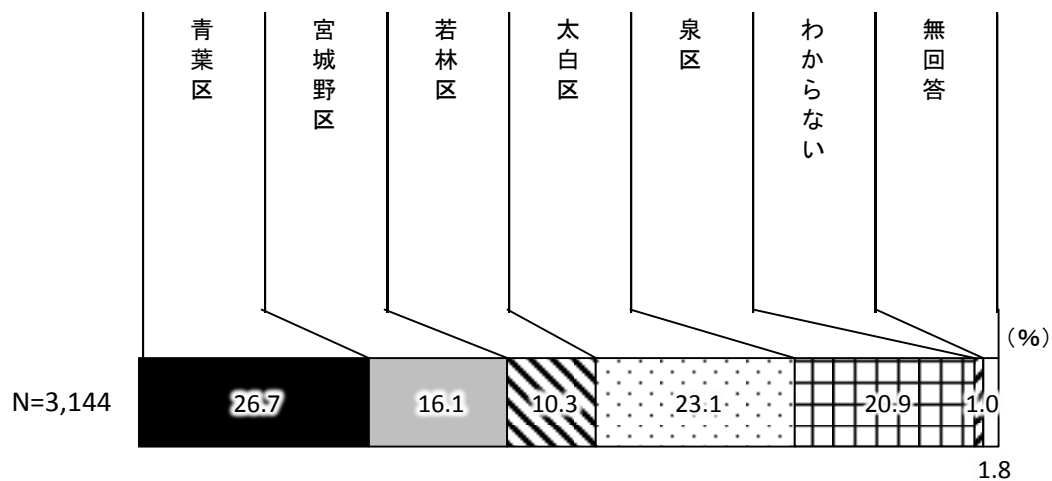
〈 泉 区 〉 20.9

47. 加茂中	2.0	52. 住吉台中	0.3	57. 七北田中	1.3	62. 八乙女中	1.7
48. 向陽台中	1.8	53. 高森中	0.9	58. 南光台中	1.7	63. 館中	0.4
49. 将監中	1.4	54. 長命ヶ丘中	1.5	59. 南光台東中	1.0		
50. 将監東中	1.8	55. 鶴が丘中	1.5	60. 根白石中	0.6		
51. 松陵中	0.9	56. 寺岡中	0.9	61. 南中山中	1.2		

〈わからない方は町名を記入してください 例：青葉区本町〉

64. わからない()	1.0
無回答	1.8

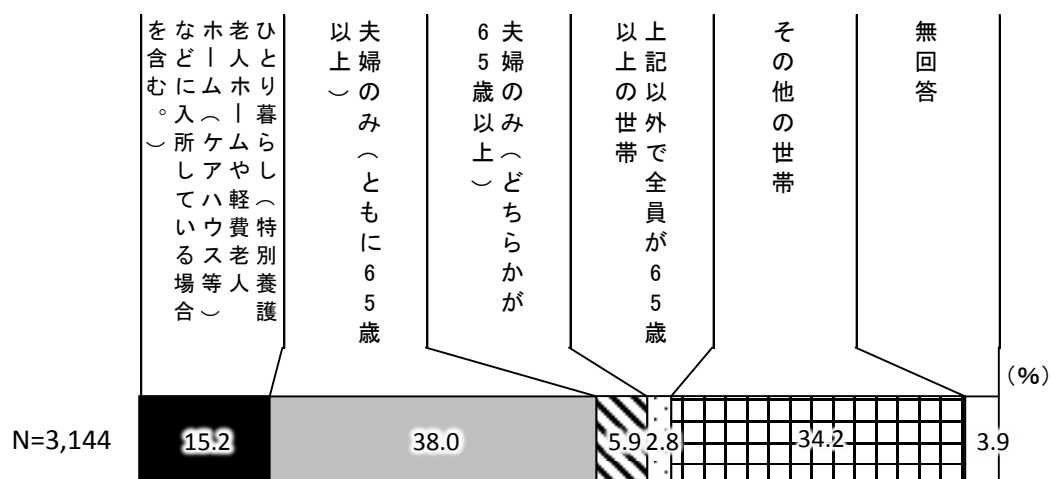
<行政区ごと>



1－(5) 世帯の状況

問5 世帯の状況は、次のどれですか。(あてはまるもの1つに○)

○世帯の状況は、「夫婦のみ（ともに 65 歳以上）」が 38.0%を占めて最も多く、次に「その他の世帯」が 34.2%で続いている。なお、65 歳以上のみの高齢世帯は 56.0%で、前回調査（平成 22 年度）より 1.1 ポイント高くなっている。

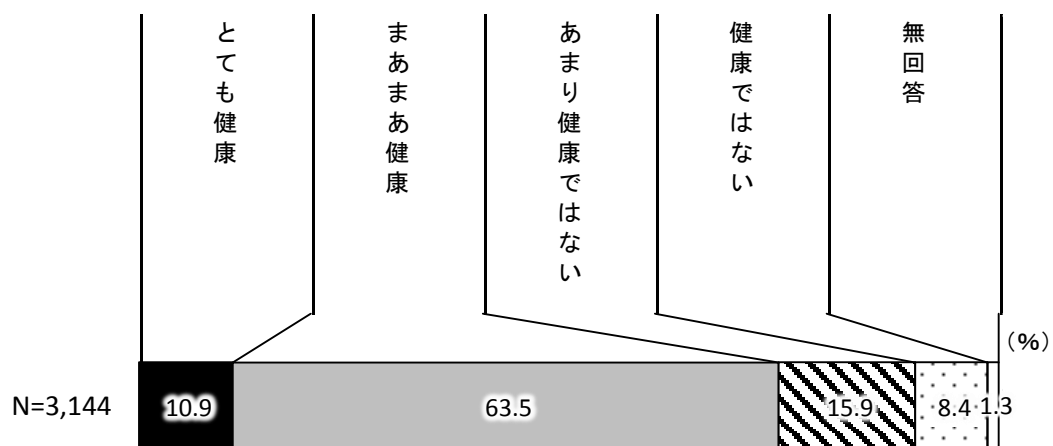


2 健康状態について

2－（１）健康状態

問6 健康状態をどのように感じていますか。（あてはまるもの1つに〇）

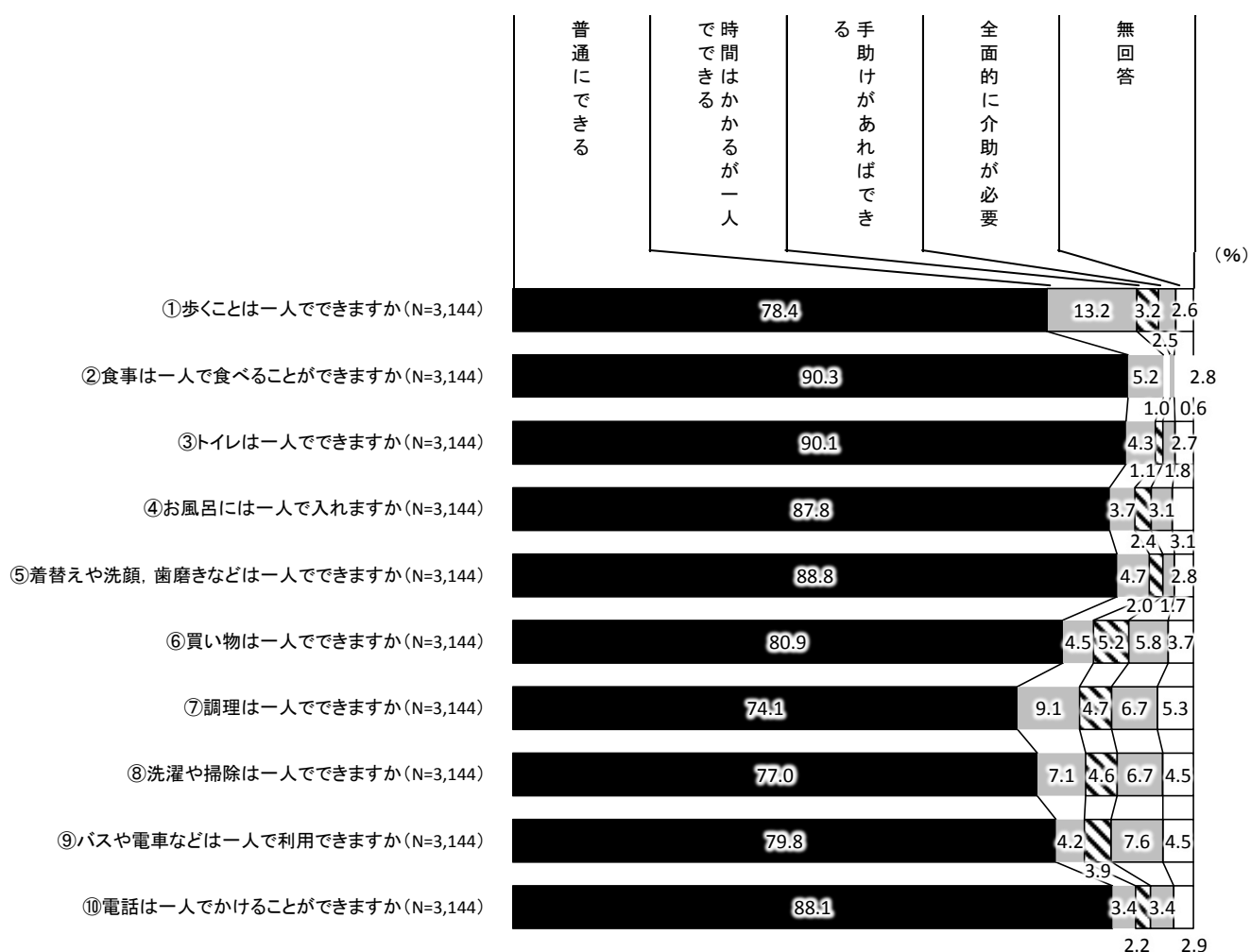
○本人の健康状態は、「まあまあ健康」が63.5%を占めて最も多く、次に「あまり健康ではない」が15.9%、「とても健康」が10.9%が続いている。「とても健康」と「まあまあ健康」を合わせると74.4%となり、前回調査（平成22年度）より5.2ポイント高くなっている。



2－（２）健康状態による日常生活の状況について

問７ 日常生活の状況について、次にあげる①～⑩の各項目それぞれについて、該当する番号1つに○をつけてください。（①～⑩それぞれあてはまるもの1つに○）

○日常生活は、「普通にできる」がどの項目もほぼ7割以上を占めて最も多く、「時間はかかるが一人でできる」、「手助けがあればできる」を合わせた『できる』が8～9割以上となっている。なお、「普通にできる」について、「調理」は74.1%と他の項目に比べてやや低い。



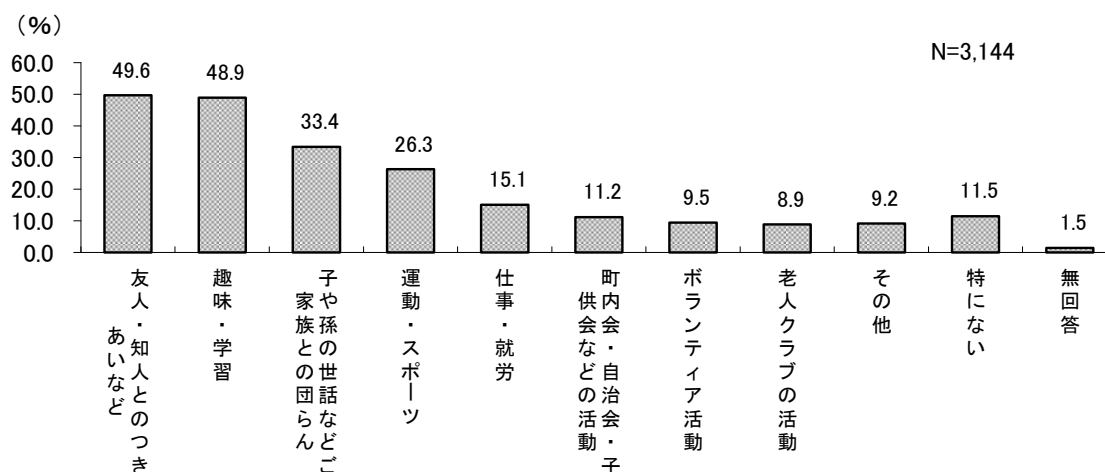
3 楽しさ・生きがいについて

3-（1）楽しさや生きがいを感じることに

問8 現在の生活の中で、どのようなことに楽しさや生きがいを感じていますか。

(あてはまるものすべてに○)

○楽しさや生きがいを感じることは、「友人・知人とのつきあいなど」(49.6%)、「趣味・学習」(48.9%)の両者が多く、次に「子や孫の世話などご家族との団らん」(33.4%)が続いている。また、11.5%の方が「特にない」と回答しているが、前回調査(平成22年度)より1.6ポイント低くなっている。なお、前回調査では、「趣味・学習」が46.6%と最も多く、「友人・知人とのつきあいなど」が46.4%と2位であったが、今回調査では両者の順位が入れ替わった。

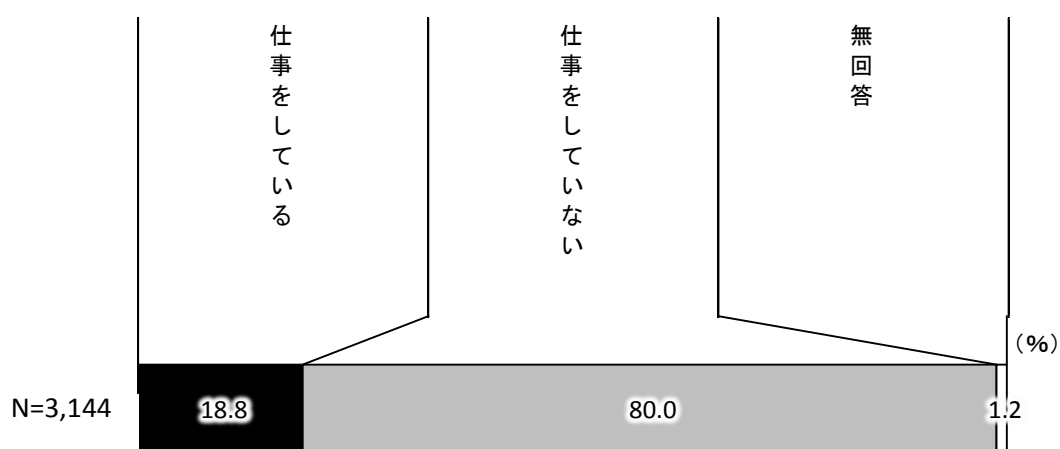


4 仕事について

4－（１）現在の仕事の有無

問9 現在、仕事をしていますか。（あてはまるもの1つに○）

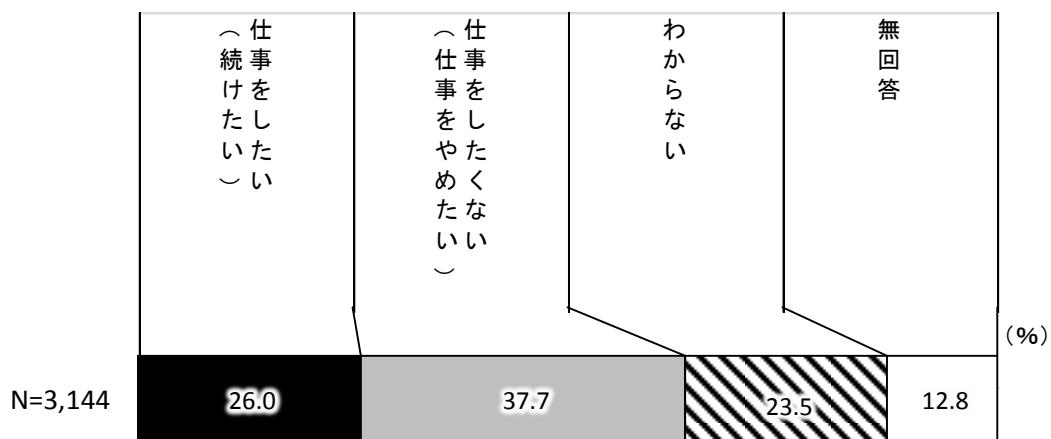
○仕事をしているかどうかは、「仕事をしていない」が80.0%と8割を占めて圧倒的に多く、「仕事をしている」は18.8%である。なお、前回調査（平成22年度）では「仕事をしていない」が79.7%、「仕事をしている」が18.7%となっており、今回調査は前回調査とほぼ同様の結果となっている。



4－（２）今後の仕事の意向

問10 今後、仕事をしたい（続けたい）と思いますか。（あてはまるもの1つに○）

○今後の就業意向は、「仕事をしたくない（仕事をやめたい）」（37.7%）が「仕事をしたい（続けたい）」（26.0%）を上回っている。なお、前回調査（平成22年度）では「仕事をしたくない（仕事をやめたい）」が35.0%、「仕事をしたい（続けたい）」が25.1%となっており、今回調査は前回調査と、ほぼ同様の結果となっている。

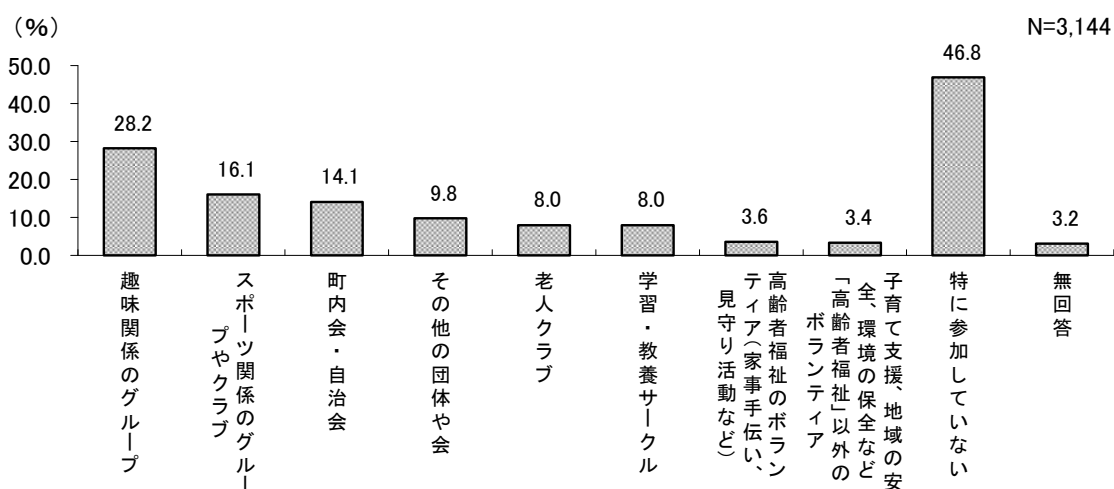


5 社会参加の状況と社会貢献について

5－（１）社会参加の状況

問 11 社会参加についておたずねします。次のような会・グループ等に月１回以上参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

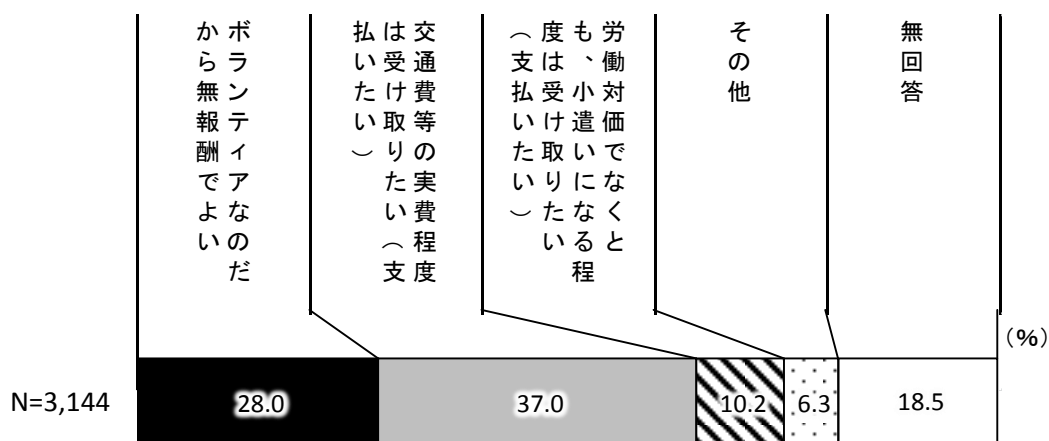
○社会参加の状況は、「特に参加していない」が46.8%と圧倒的に多く、参加しているもののうち回答割合が高かったのは、「趣味関係のグループ」(28.2%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(16.1%)、「町内会・自治会」(14.1%) などである。



5－（２）ボランティアの報酬についての考え方

問 12 ボランティアの報酬について、どのように考えますか。（あてはまるもの1つに○）

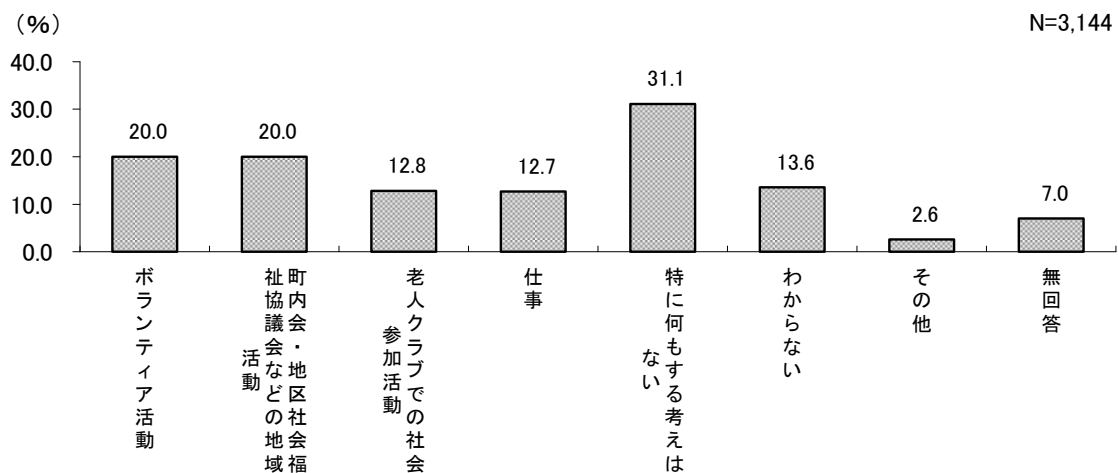
○ボランティアの報酬は、「交通費等の実費程度は受け取りたい（支払いたい）」が37.0%を占めて最も多く、次に「ボランティアなのだから無報酬でよい」が28.0%が続いている。



5－（3）地域社会に貢献できると思うこと

問 13 今後、少子高齢化がさらに進むことが予想されますが、その中で、地域社会を支える担い手として、高齢者のより一層の活躍が期待されます。そのような中、地域社会にどのような形で貢献できると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

○地域社会に貢献できると思うことは、「ボランティア活動」（20.0%）、「町内会・地区社会福祉協議会などの地域活動」（20.0%）、「老人クラブでの社会参加活動」（12.8%）、「仕事」（12.7%）と続いている。なお、「特に何もする考えはない」が31.1%と最も多いが、前回調査（平成22年度）よりは6.9ポイント低くなっている。

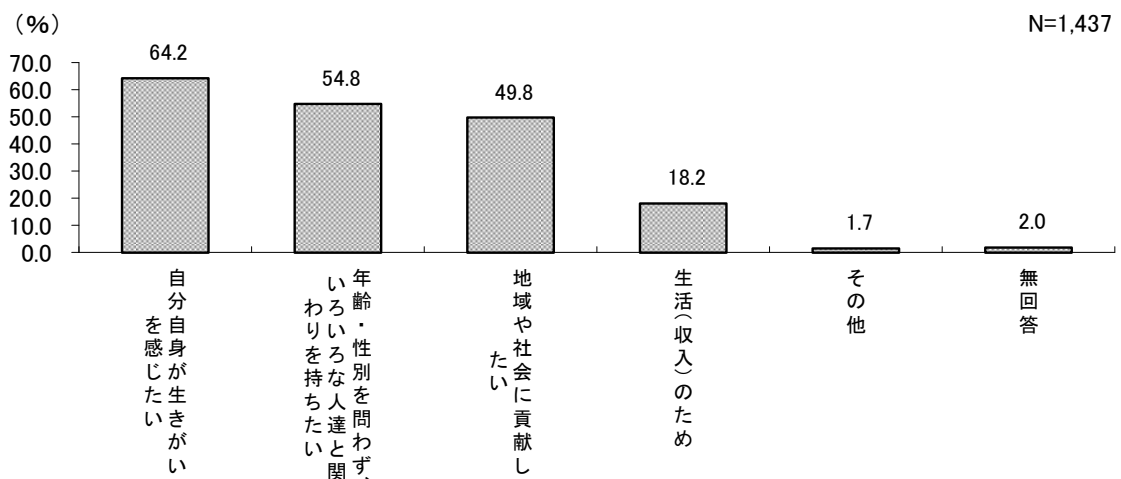


5－（4）地域社会に貢献できると思う理由

【問13で「ボランティア活動」、「町内会・地区社会福祉協議会などの地域活動」、「老人クラブでの社会参加活動」、「仕事」と回答した方におたずねします。】

問 14 その理由は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

○地域社会に貢献できると思う理由は、「自分自身が生きがいを感じたい」（64.2%）が6割を超えて最も多く、次に「年齢・性別を問わず、いろいろな人達と関わりを持ちたい」（54.8%）、「地域や社会に貢献したい」（49.8%）が続いている。

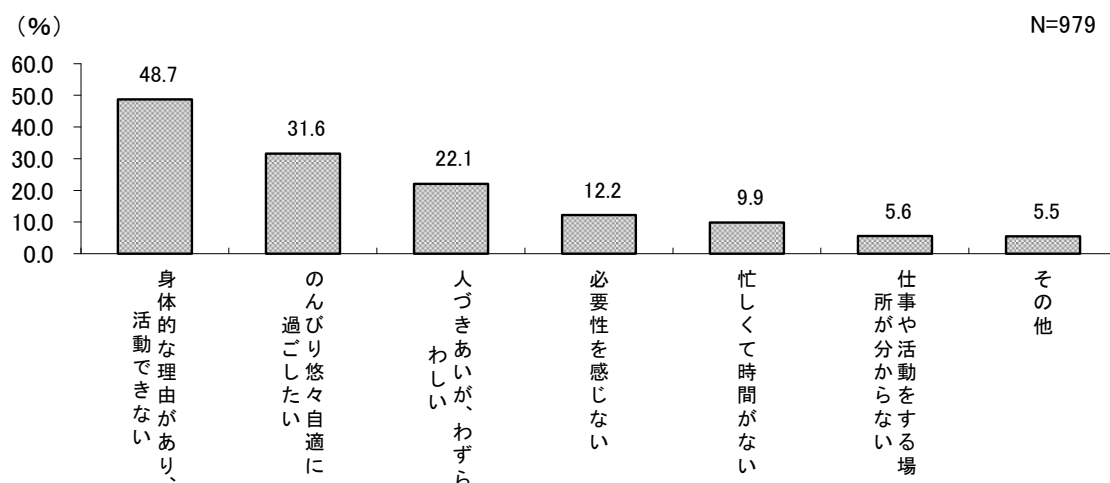


5－（5）地域社会に特に何もする考えがない理由

【問13で「特に何もする考えはない」と回答した方におたずねします。】

問15 その理由は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

○地域社会に貢献する考えがない理由は、「身体的な理由があり、活動できない」(48.7%)が約5割と最も多く、次に「のんびり悠々自適に過ごしたい」(31.6%)、「人づきあいが、わずらわしい」(22.1%)が続いている。なお、「必要性を感じない」が12.2%となっている。



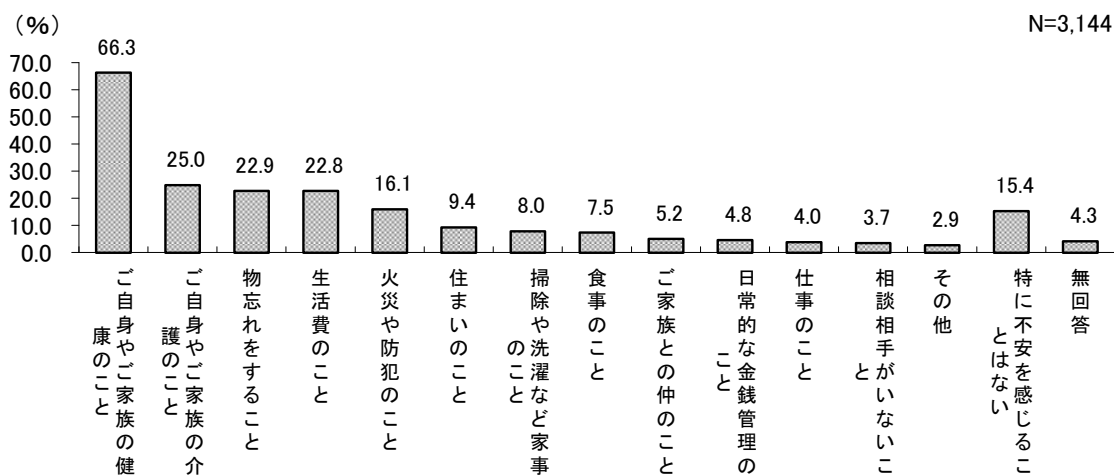
6 日常生活について

6－（1）日常生活に対する不安

問16 毎日の生活に不安を感じていることは、次のうちどれですか。

（あてはまるものすべてに○）

○日常生活に対する不安は、「ご自身やご家族の健康のこと」が66.3%と圧倒的に多く、次に「ご自身やご家族の介護のこと」(25.0%)、「物忘れをすること」(22.9%)、「生活費のこと」(22.8%)が2割以上で続いている。なお、前回調査（平成22年度）では「生活費のこと」が33.6%で2位であったが、今回調査では4位となっている。

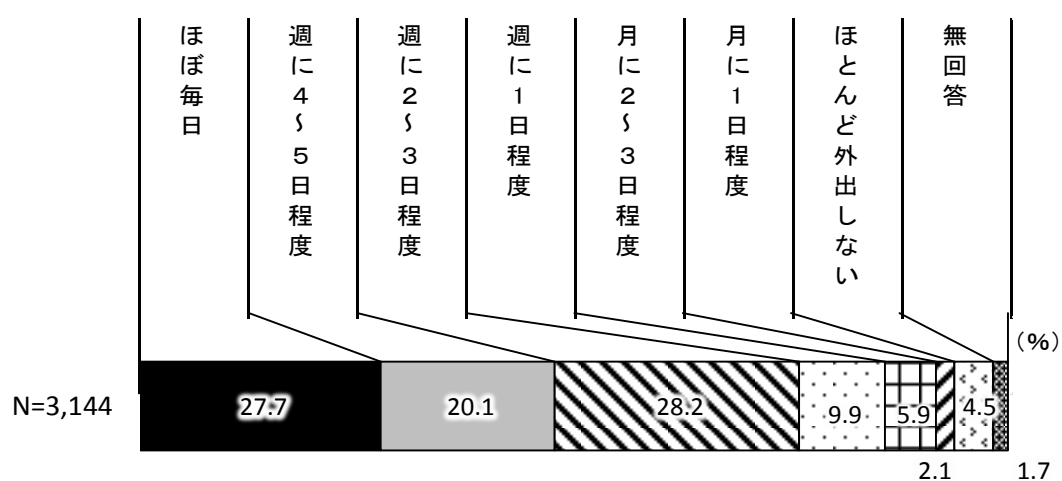


7 外出について

7－（１）外出頻度

問 17 普段どの程度外出していますか。（あてはまるもの1つに○）

○外出頻度は、「週に2～3日程度」（28.2%）、「ほぼ毎日」（27.7%）の両者が多く、次に「週に4～5日程度」（20.1%）が続いている。なお、前回調査（平成22年度）では、「週に2～3日程度」が28.2%、「ほぼ毎日」が27.6%となっており、今回調査は前回調査と、ほぼ同様の結果となっている。

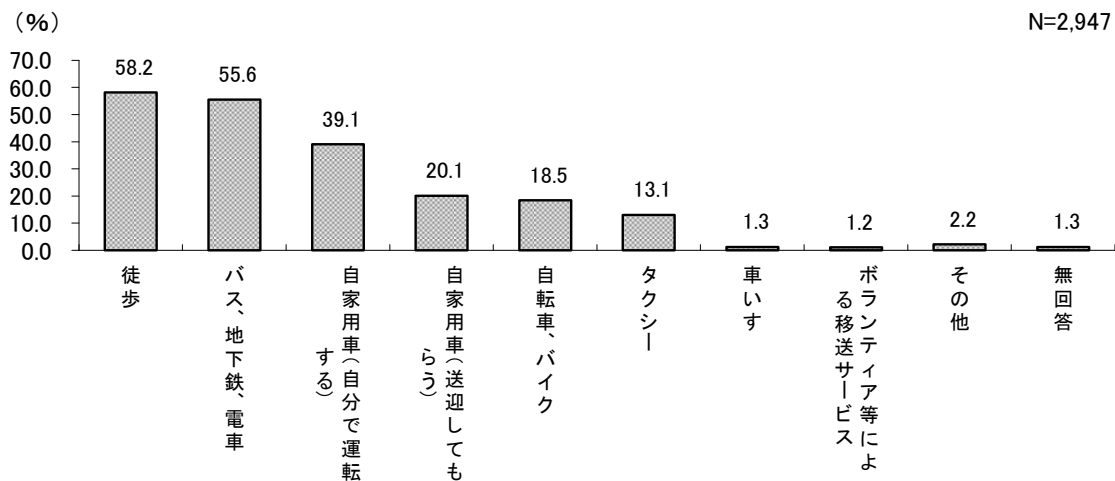


7－（２）外出の際の手段

【問17で「ほとんど外出しない」以外に回答した方におたずねします。】

問 18 普段どのような方法で外出しますか。（主なもの3つまでに○）

○外出の際の交通手段は、「徒歩」（58.2%）、「バス、地下鉄、電車」（55.6%）の両手段が多い。

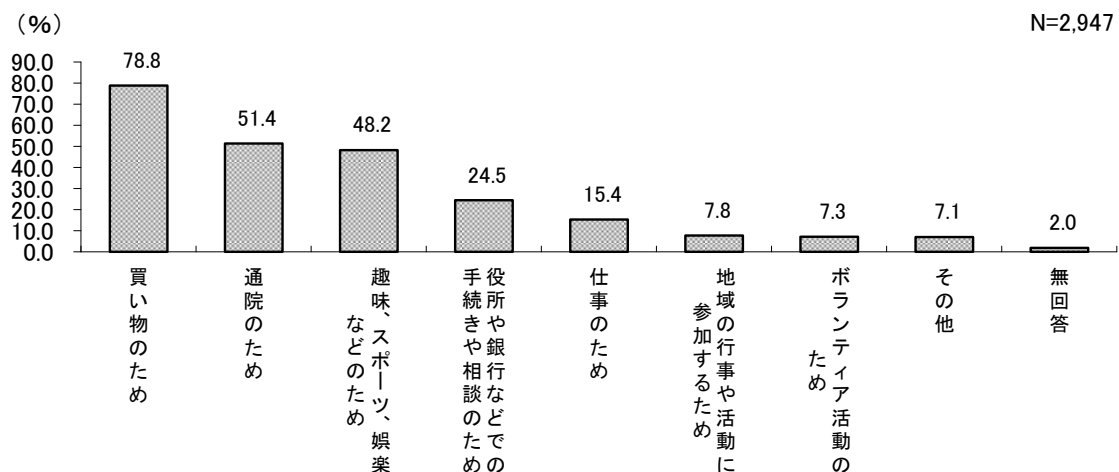


7-（3）外出の目的

【引き続き、問17で「ほとんど外出しない」以外に回答した方におたずねします。】

問19 普段どのような目的で外出しますか。（主なものを3つまでに○）

○外出の目的は、「買い物のため」(78.8%) が7割を超えて最も多く、次に「通院のため」(51.4%)、「趣味、スポーツ、娯楽などのため」(48.2%)が続いている。

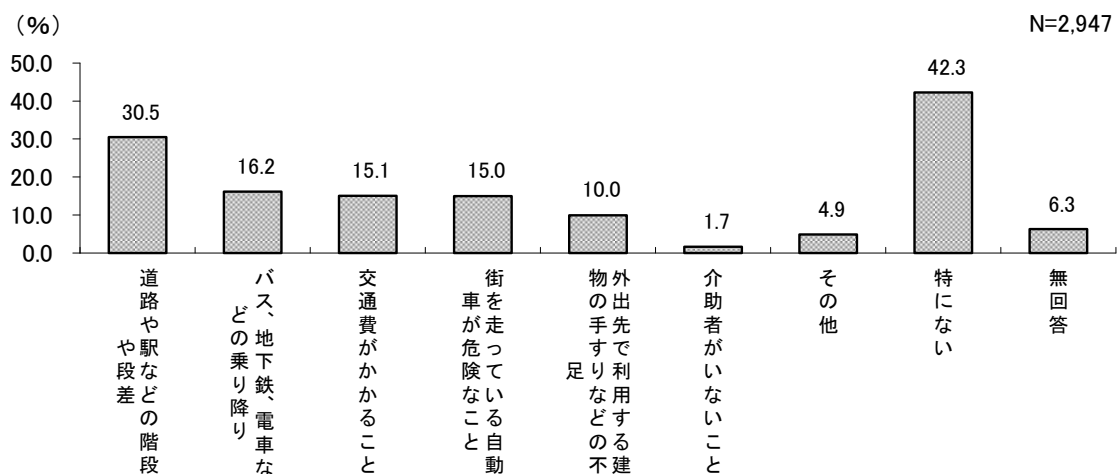


7-（4）外出の際に困ること

【引き続き、問17で「ほとんど外出しない」以外に回答した方におたずねします。】

問20 外出の際、お困りになることは次のうちどれですか。（あてはまるものをすべてに○）

○外出の際に困っていることは、「道路や駅などの階段や段差」(30.5%) が最も多く、次に「バス、地下鉄、電車などの乗り降り」(16.2%)、「交通費がかかること」(15.1%)、「街を走っている自動車が危険なこと」(15.0%)が続いている。

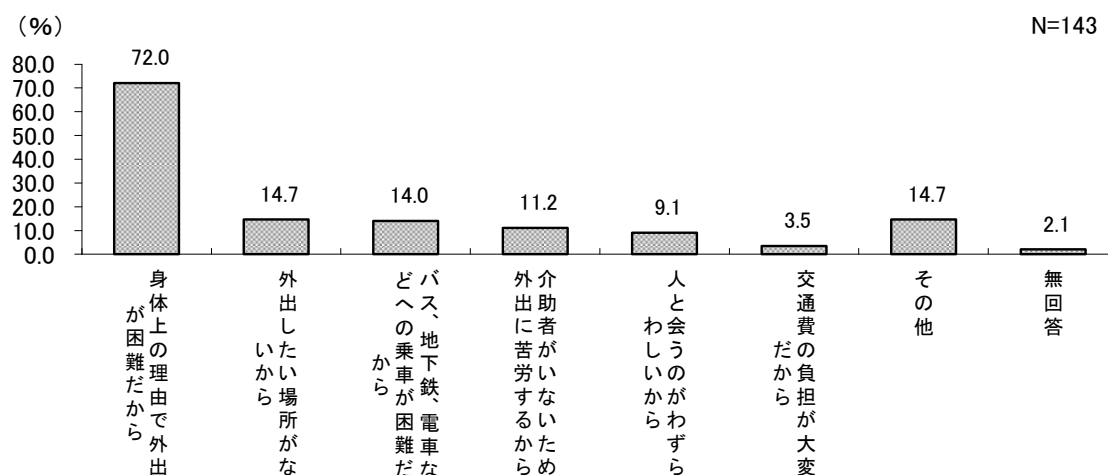


7－（5）外出しない理由

【問17で「ほとんど外出しない」と回答した方におたずねします。】

問21 その理由は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

○外出しない理由は、「身体上の理由で外出が困難だから」（72.0%）が圧倒的に多く、次に「外出したい場所がないから」（14.7%）、「バス、地下鉄、電車などへの乗車が困難だから」（14.0%）が続いている。なお、前回調査（平成22年度）では、「外出したい場所がないから」が6.6%、「人と会うのがわずらわしいから」が3.3%となっており、今回調査では前回調査に比べて「外出したい場所がないから」が8.1ポイント、「人と会うのがわずらわしいから」が5.8ポイント高くなっている。



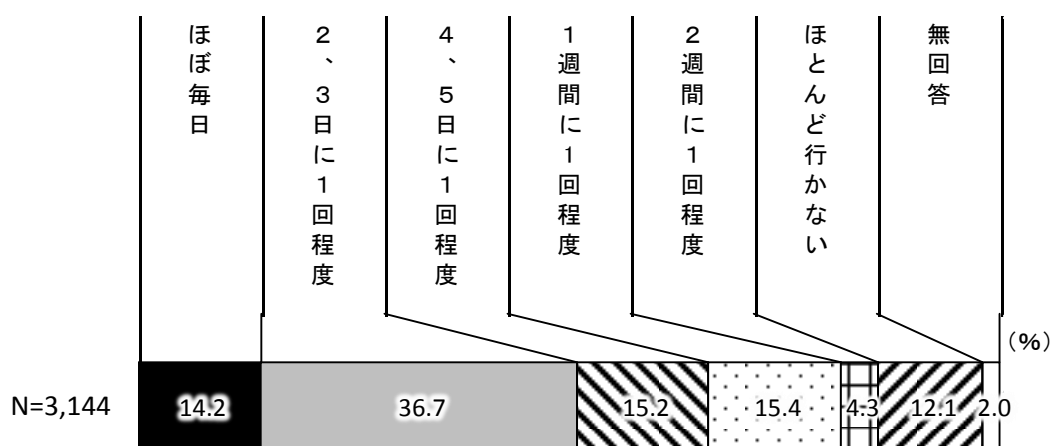
8 買い物について

8－（１）買い物に行く頻度

問 22 どれくらいの頻度で食料品や日用品の買い物に行っていますか。

（あてはまるもの 1 つ に○）

○買い物に行く頻度は、「2、3日に1回程度」が36.7%を占めて最も多く、次に「1週間に1回程度」(15.4%)、「4、5日に1回程度」(15.2%)、「ほぼ毎日」(14.2%)が続いている。なお、「ほとんど行かない」は12.1%で、前回調査（平成22年度）より2.1ポイント低くなっている。

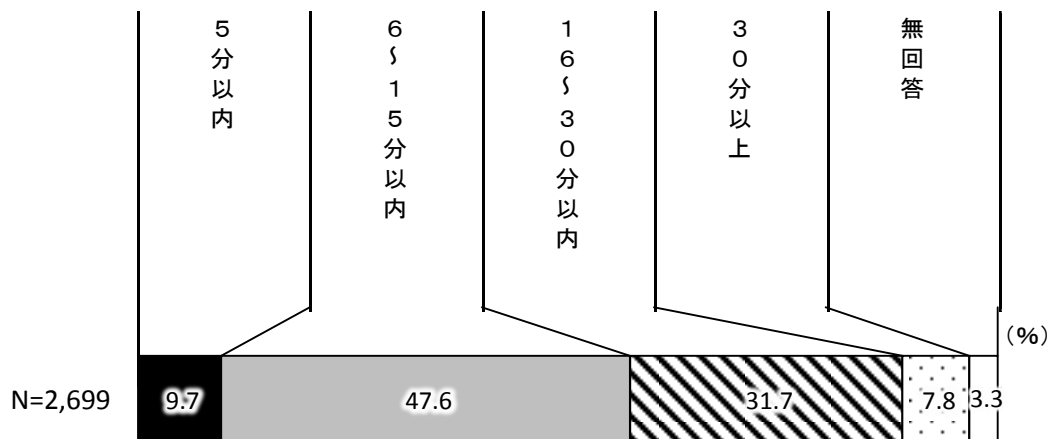


8－（２）普段買い物をする店までの所要時間（片道）

【問22で「ほとんど行かない」以外に回答した方におたずねします。】

問 23 普段買い物をする店まで、片道何分くらいかかりますか。（あてはまるもの 1 つ に○）

○普段買い物をする店までの所要時間は、「6～15分以内」が47.6%を占めて最も多く、次に「16～30分以内」(31.7%)が続いている。



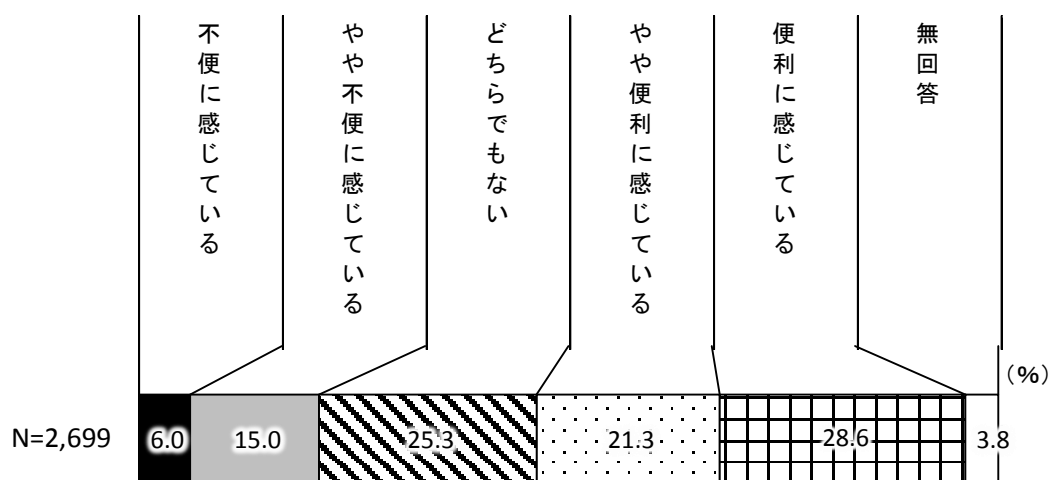
8－（3）普段の買い物の利便性

【引き続き、問22で「ほとんど行かない」以外に回答した方におたずねします。】

問24 普段の食料品や日用品の買い物についてどのようにお感じですか。

（あてはまるもの1つに○）

○買い物の利便性についての考えは、「便利に感じている」が28.6%を占めて最も多く、次に「どちらでもない」(25.3%)、「やや便利に感じている」(21.3%)と続いている。なお、「不便に感じている」と「やや不便に感じている」を合わせた『不便』との回答は21.0%と約2割である。

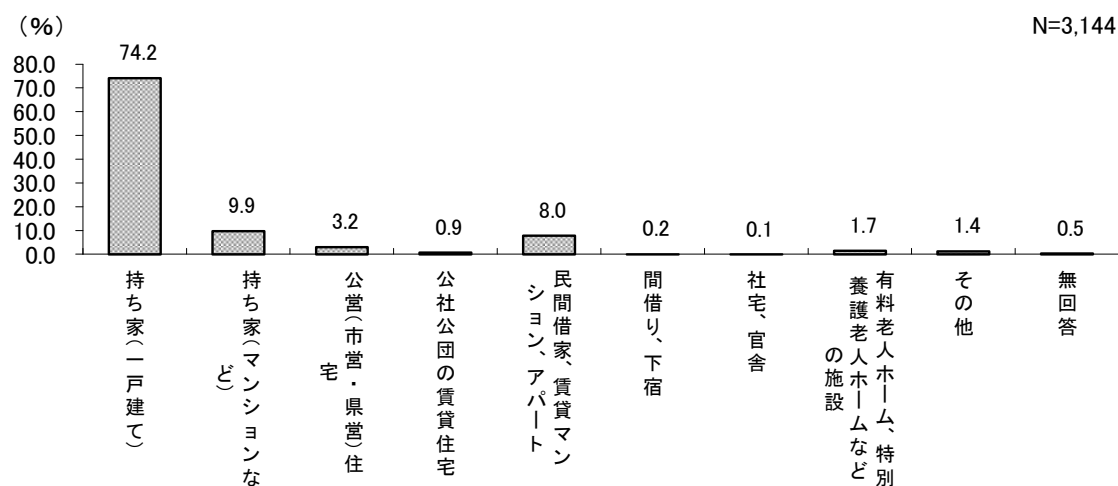


9 住宅、住み替え意向について

9－（１）住居形態

問 25 現在のお住まいは、次のうちどれですか。（あてはまるもの1つに○）

○本人の現在の居住形態は、「持ち家（一戸建て）」が74.2%を占めて最も多く、次に「持ち家（マンションなど）」（9.9%）、「民間借家、賃貸マンション、アパート」（8.0%）が続いている。

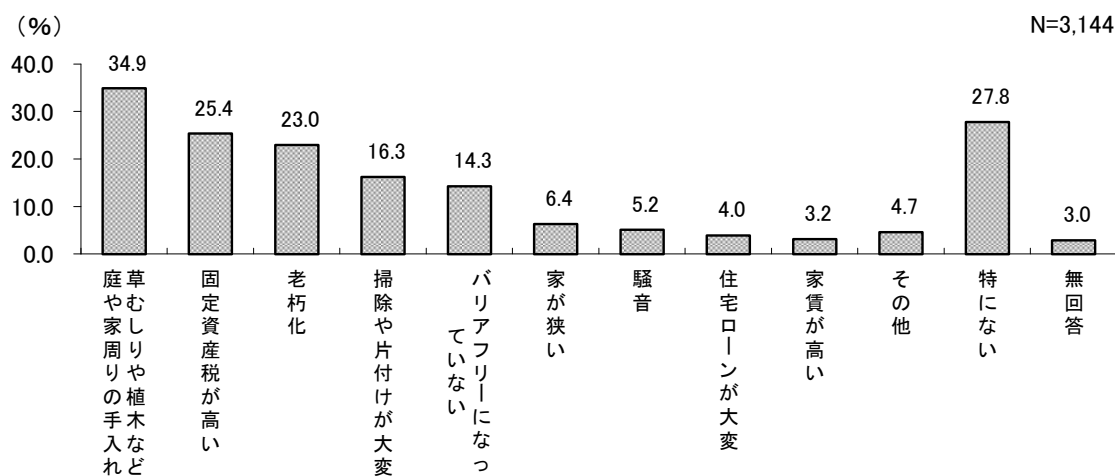


9－（２）住宅に関して困っていること

問 26 現在お住まいの住宅に関して困っていることがありますか。

（あてはまるものすべてに○）

○住宅に関して困っていることは、「草むしりや植木など庭や家周りの手入れ」（34.9%）が最も多く、次に「固定資産税が高い」（25.4%）、「老朽化」（23.0%）、「掃除や片付けが大変」（16.3%）などが続いている。

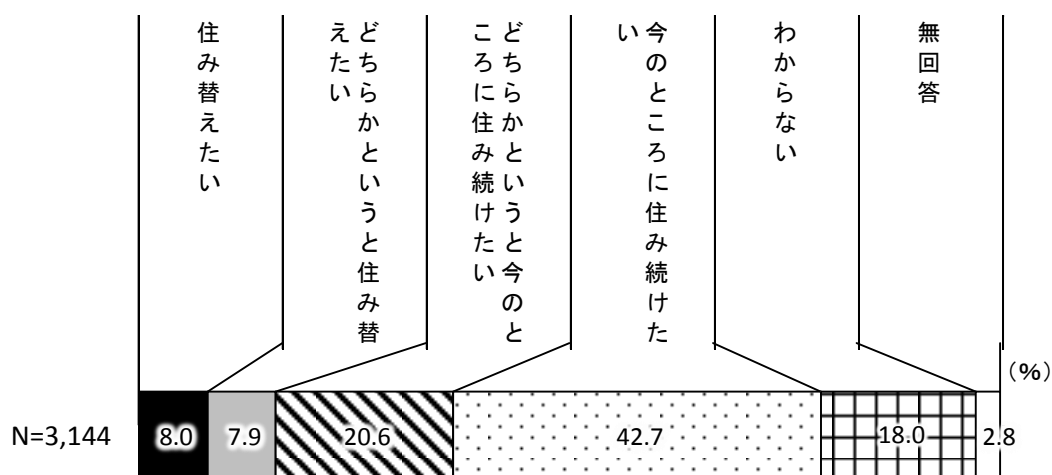


9－（3）介護が必要になった際の住み替えの意向

問 27 介護が必要になったら今お住まいの所からの住み替えを希望しますか。

（あてはまるもの1つに○）

○介護になった場合の住み替えの意向は、「今のところに住み続けたい」（42.7％）が最も多く、次に「どちらかという今にところに住み続けたい」（20.6％）が続き、両回答を合わせた『住み続けたい』が63.3％と6割以上を占める。なお、「今のところに住み続けたい」は前回調査（平成22年度）より3.5ポイント低くなっており、「わからない」（18.0％）は前回調査より3.6ポイント高くなっている。

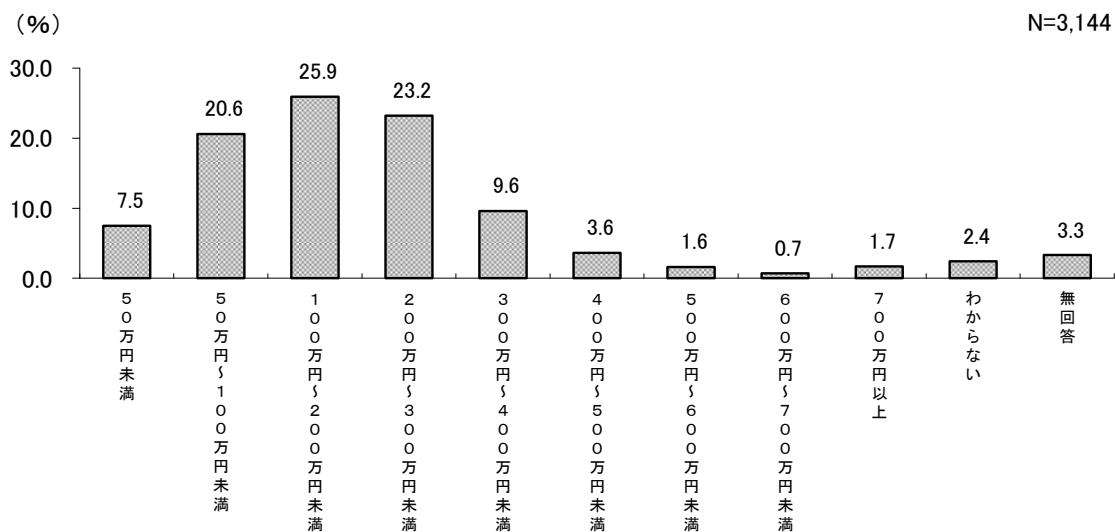


10 本人・世帯の年間総収入について

10-（1）本人の年間総収入

問 28 ご本人の年間総収入（年金、仕送りなども含みます。）の額は、およそどれくらいですか。（あてはまるもの1つに○）

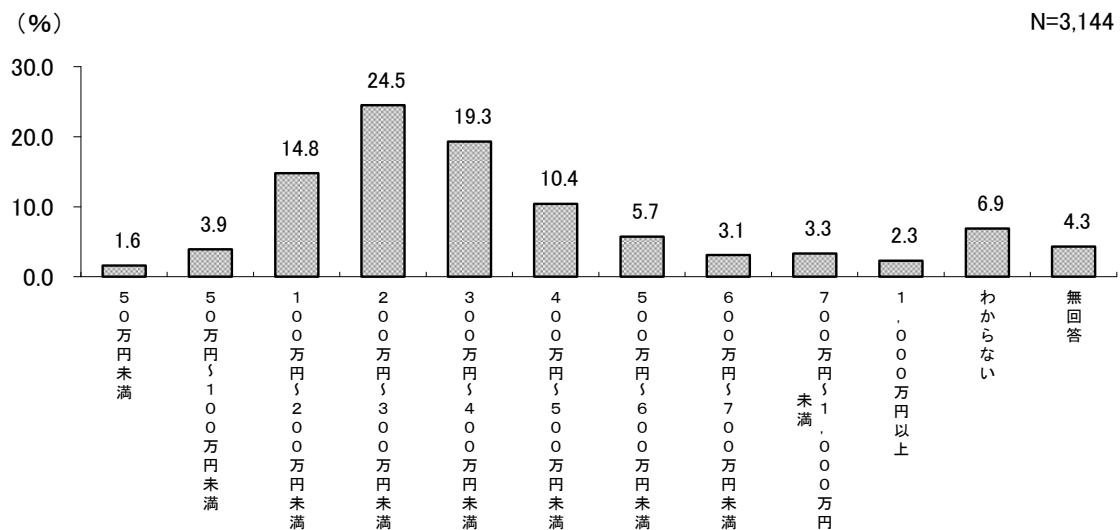
○本人の年間総収入は、「100～200 万円未満」が 25.9%を占めて最も多く、次に「200～300 万円未満」が 23.2%で続いている。なお、『100 万円未満』も 28.1%と 3 割近くに達している。



10-（2）世帯の年間総収入

問 29 ご本人も含めた世帯全員の年間総収入（年金、仕送りなども含みます。）の合計額は、およそどれくらいですか。（あてはまるもの1つに○）

○本人も含めた世帯全員の年間総収入は、「200～300 万円未満」が 24.5%を占めて最も多く、次に「300～400 万円未満」が 19.3%で続いている。

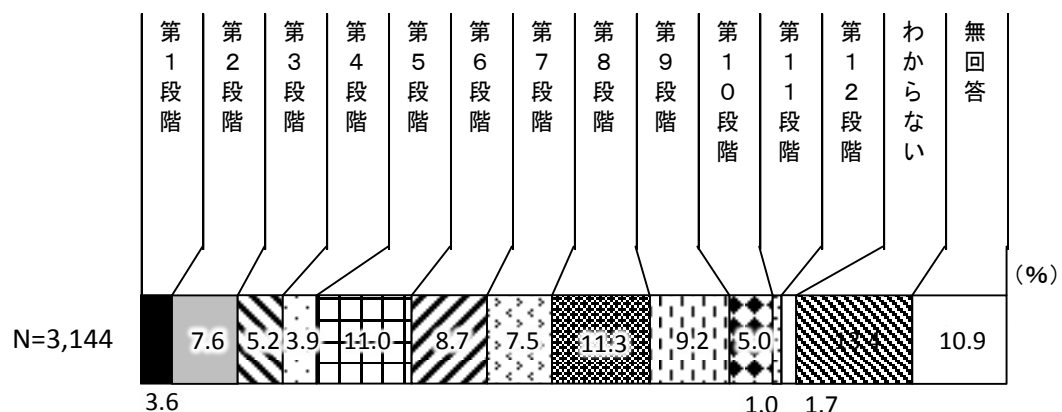


11 介護保険料について

11-1 保険料段階

問 30 ご本人の保険料段階は、次のうちどれですか。（あてはまるもの 1 つ に○）

○保険料段階は、「わからない」が 13.4%で最も多く、次に「第8段階」(11.3%)、「第5段階」(11.0%)、「第9段階」(9.2%)が続いている。



【参考】仙台市の第1号被保険者（65歳以上の方）の保険料（平成24～26年度）

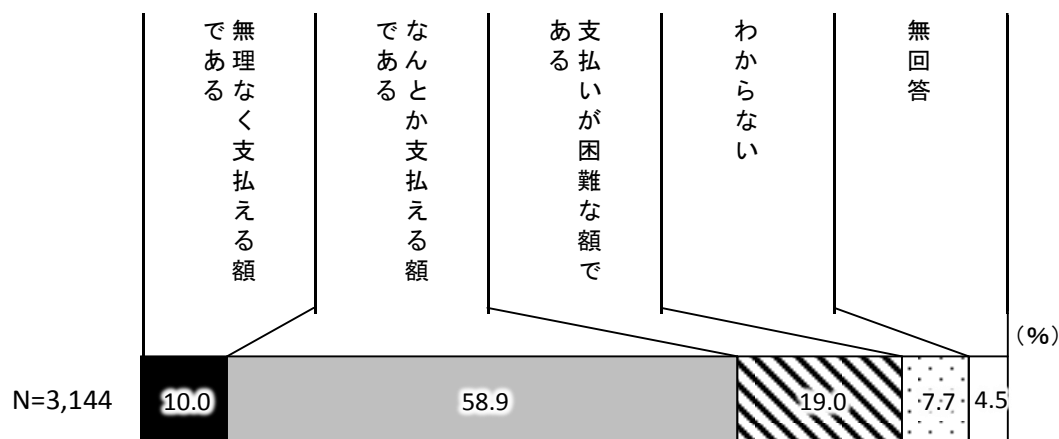
所得段階	対 象 と な る 方	基準額に 対する 割 合	年 額 保険料 ※	月 額 換 算
第1段階	次のいずれかに該当する方 ①生活保護を受けている方 ②本人が老齢福祉年金受給者で、世帯全員が市町村民税非課税の方	0.50	30,800 円	2,571 円
第2段階	本人の前年の「合計所得金額」と「課税年金収入額」の合計額が 80 万円以下の方	0.50	30,800 円	2,571 円
第3段階	世帯全員が市町村民税非課税で 本人の前年の「合計所得金額」と「課税年金収入額」の合計額が 80 万円を超え、120 万円以下の方	0.65	40,100 円	3,342 円
第4段階	本人の前年の「合計所得金額」と「課税年金収入額」の合計額が 120 万円を超える方	0.75	46,200 円	3,857 円
第5段階	本人が市町村民税非課税で、他の世帯員に市町村民税を課税されている方がいて 本人の前年の「合計所得金額」と「課税年金収入額」の合計額が 80 万円以下の方	0.85	52,400 円	4,371 円
第6段階	本人の前年の「合計所得金額」と「課税年金収入額」の合計額が 80 万円を超える方	1.00 (基準額)	61,700 円	5,142 円
第7段階	本人の前年の「合計所得金額」が 125 万円未満の方	1.10	67,800 円	5,656 円
第8段階	本人の前年の「合計所得金額」が 125 万円以上 200 万円未満の方	1.25	77,100 円	6,428 円
第9段階	本人の前年の「合計所得金額」が 200 万円以上 300 万円未満の方	1.50	92,500 円	7,713 円
第10段階	本人の前年の「合計所得金額」が 300 万円以上 500 万円未満の方	1.65	101,800 円	8,484 円
第11段階	本人の前年の「合計所得金額」が 500 万円以上 700 万円未満の方	1.85	114,100 円	9,513 円
第12段階	本人の前年の「合計所得金額」が 700 万円以上の方	2.00	123,400 円	10,284 円

※ 100 円未満切捨て

1 1 - (2) 保険料の負担感

問 31 現在の保険料額を、どのように感じていますか。(あてはまるもの 1 つに〇)

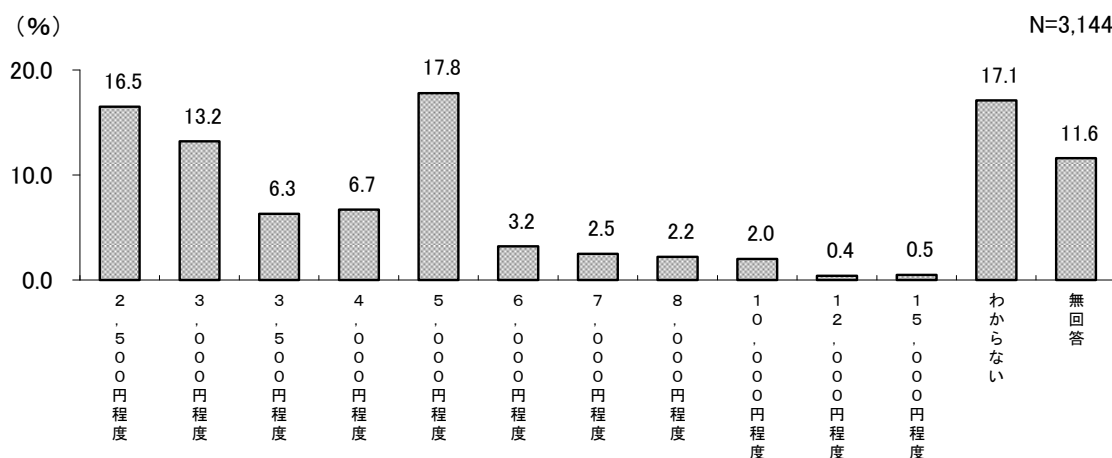
○保険料の負担感は、「なんとか支払える額である」(58.9%) が半数以上を占めて最も多く、「無理なく支払える額である」(10.0%) を合わせた 7 割近く (68.9%) が『支払える額』と考えている。なお、「なんとか支払える額である」は前回調査 (平成 22 年度) より 6.2 ポイント高くなっている。



1 1 - (3) ひと月あたりの妥当と考える保険料額

問 32 現在のご本人の保険料段階として、妥当と考える保険料の額は、ひと月あたりどのくらいの額ですか。(あてはまるもの 1 つに〇)

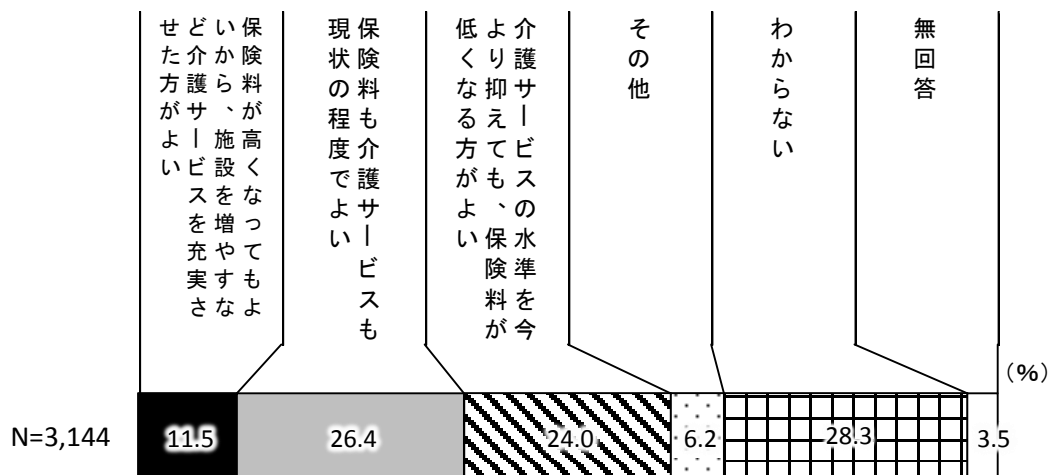
○妥当と思う保険料は、「5,000 円程度」(17.8%) が最も多く、次に「わからない」(17.1%)、「2,500 円程度」(16.5%)、「3,000 円程度」(13.2%) が続いている。なお、前回調査 (平成 22 年度) では、「3,000 円程度」が 16.8% と最も多かった。



1 1 - (4) 保険料と介護サービスのあり方

問 33 介護保険料の基準額は、介護サービスの利用量によって決まります。よって、施設が増えたり、介護サービスが充実するなどして利用量が増えたと、保険料も増加することになります。このことを踏まえ、保険料と介護サービスのあり方について、ご本人の考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(あてはまるもの 1 つ に○)

○保険料と介護サービスのあり方については、「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」が 26.4%を占めて最も多く、次に「介護サービスの水準を今より抑えても、保険料が低くなる方がよい」(24.0%)が続いている。なお、前回調査(平成 22 年度)では、「介護サービスの水準を今より抑えても、保険料が低くなる方がよい」が 23.3%と最も多く、「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」が 22.0%と 2 位であったが、今回調査では両者の順位が入れ替わった。



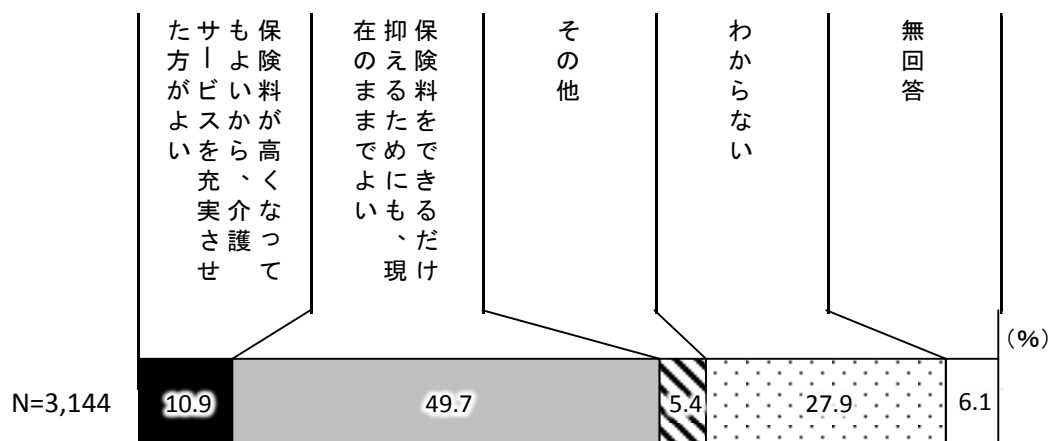
1 1－（5）市独自の介護保険サービスと保険料のあり方

問 34 介護保険制度では、基本的なサービスの水準を国が定めていますが、仙台市の判断でその他のサービスを保険給付の対象に加えたり、サービスの利用限度額（1割負担で利用できる限度額）を高く設定することができます。

ただしこの場合、必要な費用は全額65歳以上の方の保険料でまかなうことになるため、皆様からいただく保険料が高くなります。

このことを踏まえ、保険料と介護サービスのあり方について、ご本人の考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（あてはまるもの1つに○）

○市独自のサービスと保険料のあり方については、「保険料をできるだけ抑えるためにも、現在のままでよい」が49.7%と約5割を占めて最も多く、「保険料が高くなってもよいから、介護サービスを充実させた方がよい」は10.9%である。また、「わからない」との回答が27.9%と3割近くを占めている。



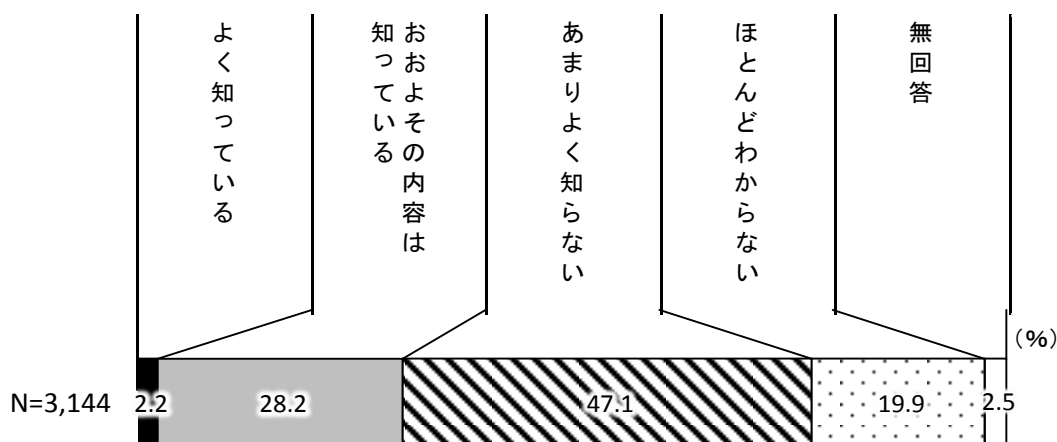
12 介護保険制度について

12-（1）介護保険制度の仕組みについての周知状況

問 35 介護保険制度の仕組みなどについて、どの程度ご存知ですか。

（あてはまるもの 1 つ に○）

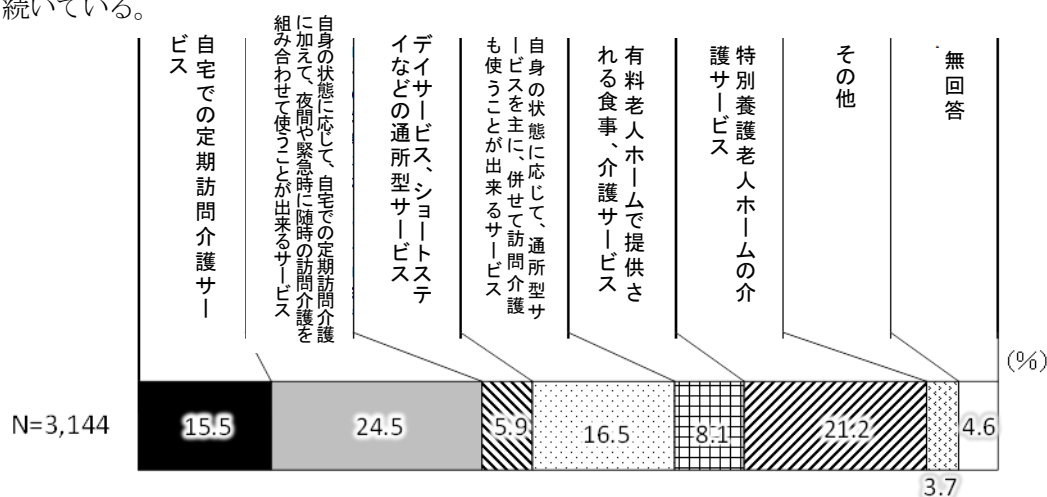
○介護保険制度の仕組みの周知状況については、「よく知っている」(2.2%)と「おおよその内容は知っている」(28.2%)を合わせた『知っている』が30.4%、一方「あまりよく知らない」(47.1%)と「ほとんどわからない」(19.9%)を合わせた『知らない』が67.0%となっており、『知らない』が『知っている』を大きく上回っている。



12-（2）今後利用したい介護サービス

問 36 ほぼ寝たきりの状態となり、介護が必要となった場合、主にどのような介護サービスを使いたいと思いますか。（あてはまるもの 1 つ に○）

○介護が必要となった場合にしたい介護サービスについては、「自身の状態に応じて、自宅での定期訪問介護に加えて、夜間や緊急時に随時の訪問介護を組み合わせるサービス」(24.5%)が最も多く、次に「特別養護老人ホームの介護サービス」(21.2%)、「自身の状態に応じて、通所型サービス」(16.5%)、「有料老人ホームで提供される食事、介護サービス」(8.1%)、「デイサービス、ショートステイなどの通所型サービス」(5.9%)、「自宅での定期訪問介護サービス」(15.5%)が続いている。

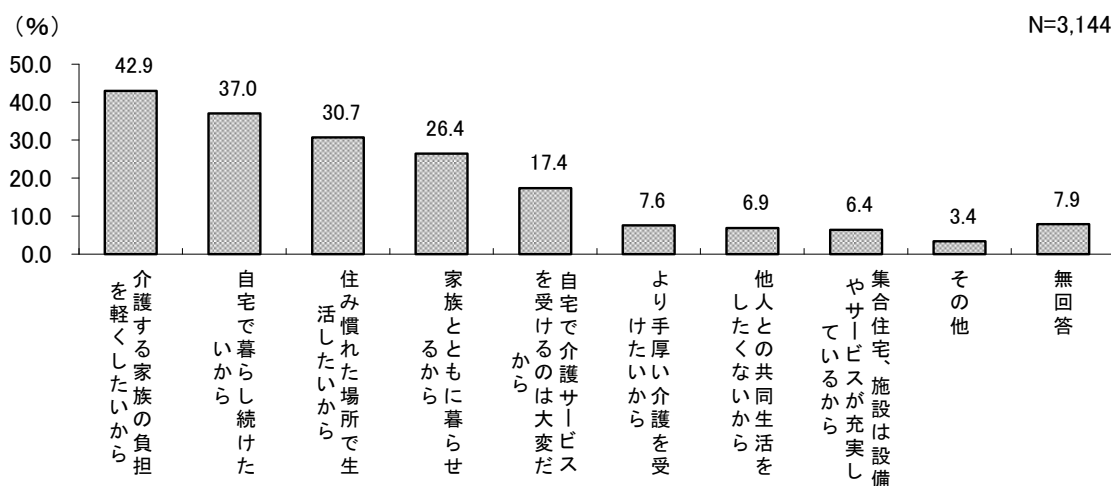


12- (3) その介護サービスを選んだ理由

問37 問36の介護サービスを選んだ理由は、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

○介護が必要となった場合に使いたい介護サービスとして選んだ理由は、「介護する家族の負担を軽くしたいから」(42.9%)が最も多く、次に「自宅で暮らし続けたいから」(37.0%)、「住み慣れた場所で生活したいから」(30.7%)が3割以上で続いている。

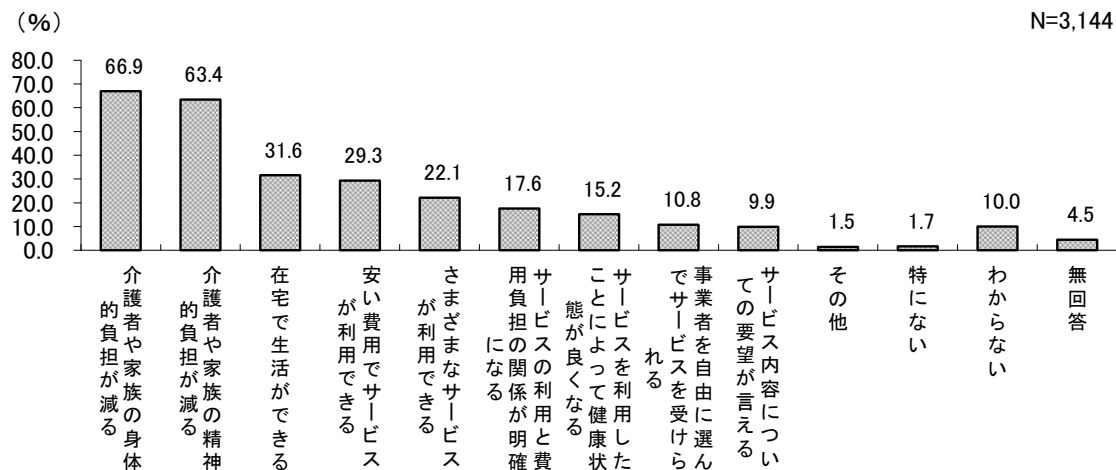


12- (4) 介護保険制度のメリット

問38 介護保険制度のサービスを使うことによって、メリットがあると思われる点は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

○介護保険制度のサービスを使うことによってメリットがあると思われる点は、「介護者や家族の身体的負担が減る」(66.9%)、「介護者や家族の精神的負担が減る」(63.4%)が6割を超えて多く、家族の負担軽減が上位に挙げられている。

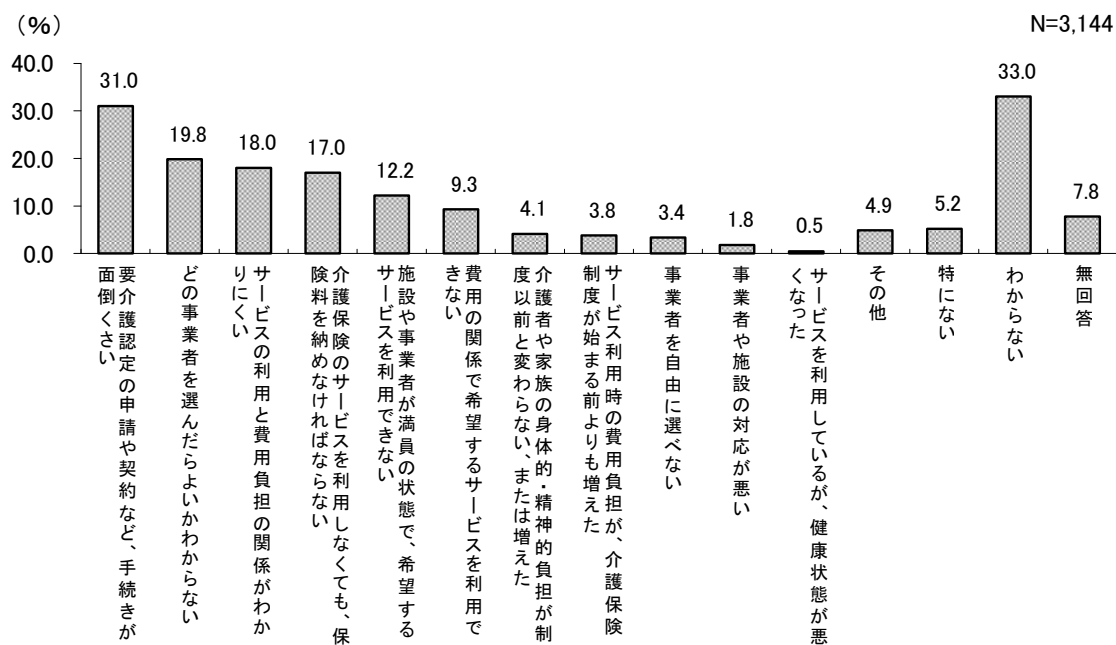


12-（5）介護保険制度で不十分なもの

問 39 介護保険制度のサービスについて、不十分だと思われる点は何ですか。

（あてはまるものをすべてに○）

○介護保険制度で不十分なものは、「要介護認定の申請や契約など、手続きが面倒くさい」(31.0%)が最も多く、次に「どの事業者を選んだらよいかわからない」(19.8%)、「サービスの利用と費用負担の関係がわかりにくい」(18.0%)が続いている。なお、「介護保険のサービスを利用しなくても、保険料を納めなければならない」(17.0%)は前回調査（平成22年度）より4.9ポイント低くなっている。また、「わからない」(33.0%)との回答が3割以上ある。



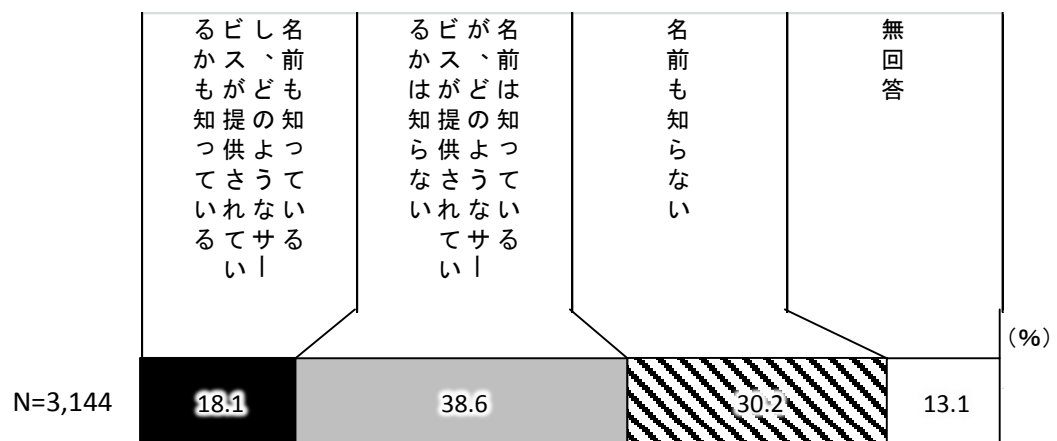
13 地域包括支援センターについて

13-（1）地域包括支援センターの認知状況

問 40 地域住民の保健医療の向上や、福祉の増進を支援する施設として、市内に 49 か所の地域包括支援センターがあります。地域包括支援センターについて知っていますか。

（あてはまるもの 1 つに〇）

○地域包括支援センターの認知度は、「名前は知っているが、どのようなサービスが提供されているかは知らない」（38.6%）と「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」（18.1%）を合わせた『知っている』が 56.7%と 5 割以上を占める。なお、『知っている』は前回調査（平成 22 年度）より 6.4 ポイント高くなっており、一方、「名前も知らない」（30.2%）は前回調査より 10.9 ポイント低くなっている。

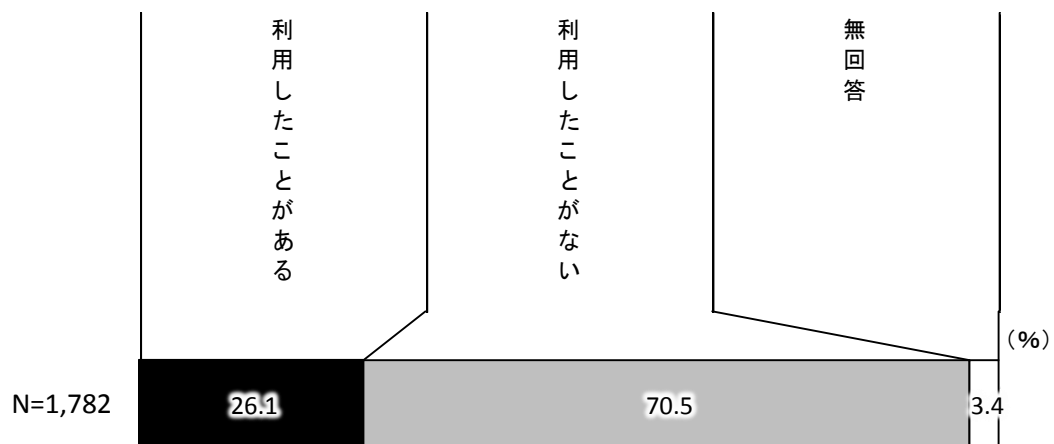


1 3 - (2) 地域包括支援センターの利用経験

【問 40 で「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」、「名前は知っているが、どのようなサービスが提供されているかは知らない」と回答した方におたずねします。】

問 41 ご本人やご家族のことに、地域包括支援センターを利用したことがありますか。
(あてはまるもの 1 つに〇)

○地域包括支援センターの利用経験は、「利用したことがない」が 70.5%と約 7 割を占めており、「利用したことがある」は 26.1%であり、前回調査（平成 22 年度）と、ほぼ同様の結果となっている。

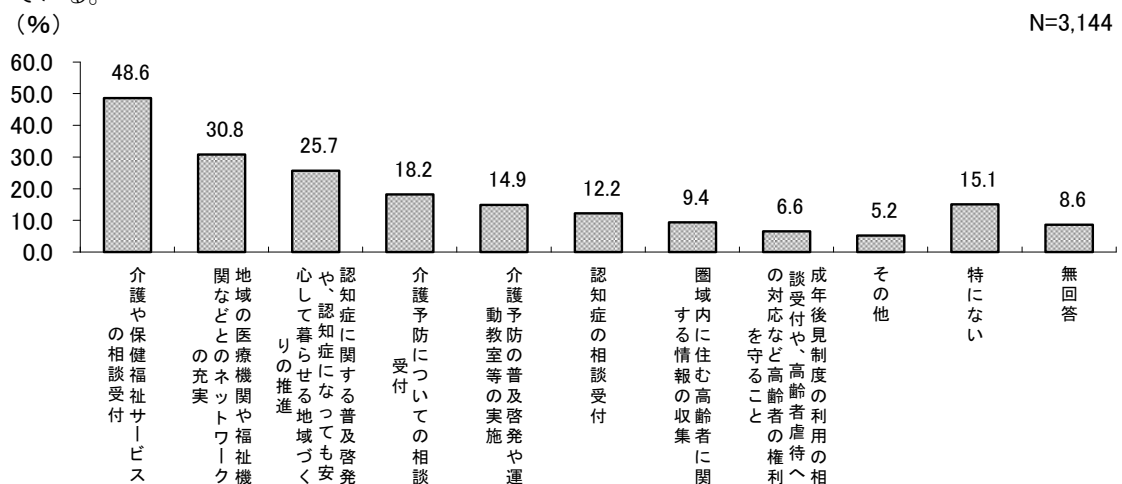


1 3 - (3) 地域包括支援センターに今後期待すること

問 42 地域包括支援センターに今後どのようなことを期待しますか。

(主なもの 3 つまでに〇)

○地域包括支援センターに今後期待することは、「介護や保健福祉サービスの相談受付」(48.6%) が最も多く、次に「地域の医療機関や福祉機関などのネットワークの充実」(30.8%)、「認知症に関する普及啓発や、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの推進」(25.7%) が続いている。



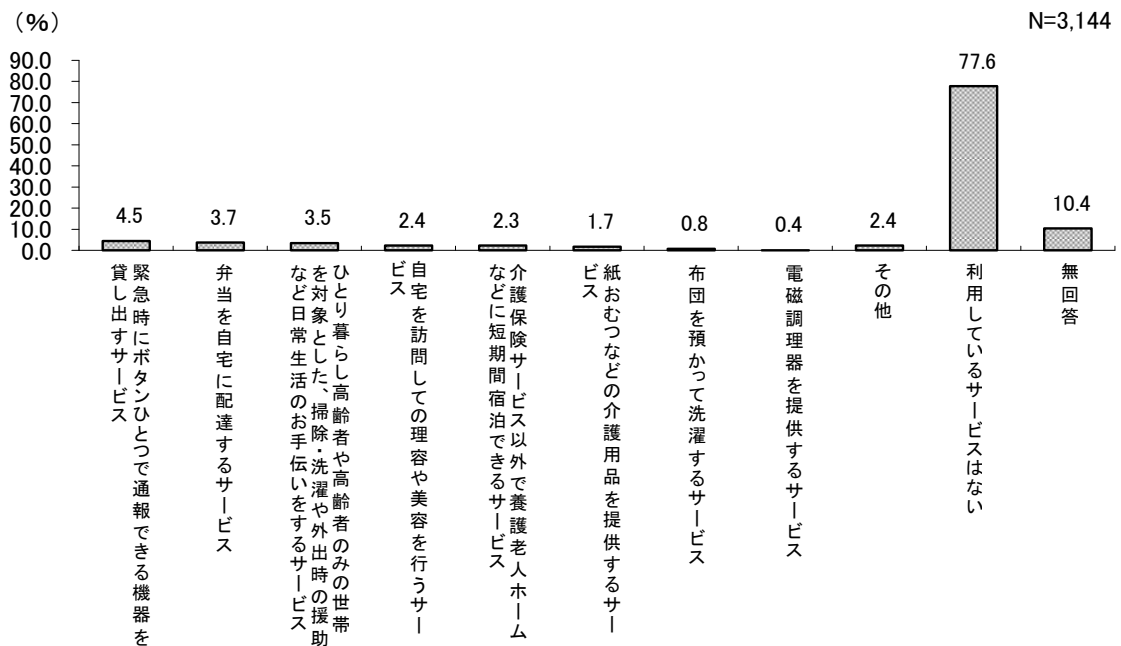
14 高齢者福祉サービスについて

14-（1）現在利用しているサービス

問 43 日常生活の不便さを解消するために、現在利用しているサービスはありますか。

（あてはまるものすべてに○）

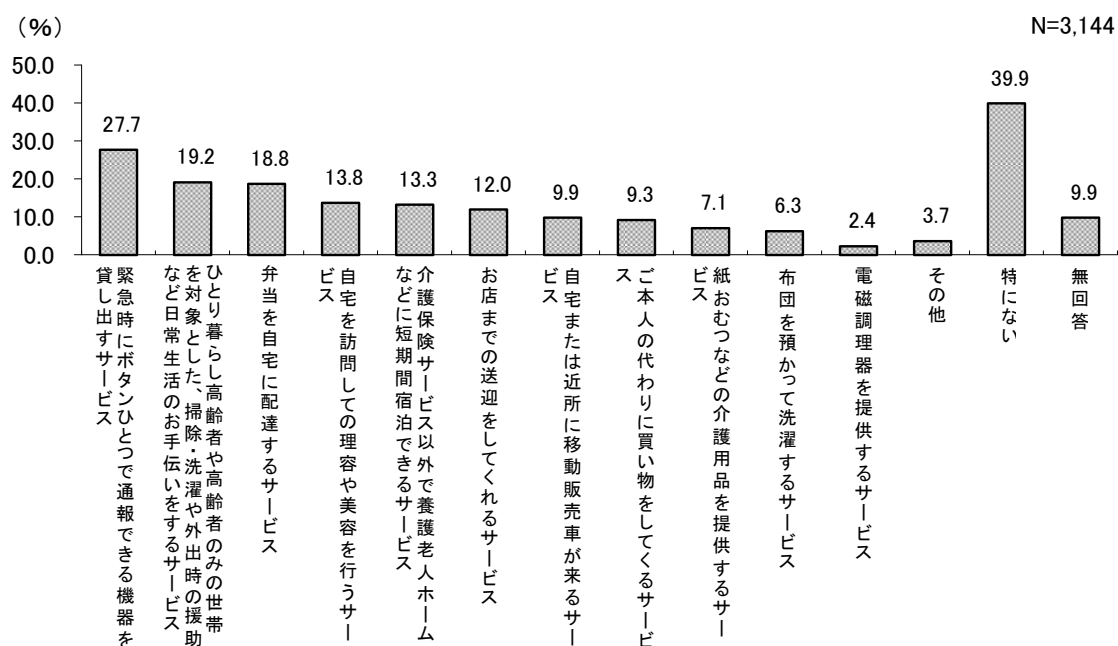
○現在利用しているサービスについては、「利用しているサービスはない」（77.6％）との回答が最も多く7割以上ある。現在サービスを利用している方の中からは、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」（4.5％）が特に多く、次に「弁当を自宅に配達するサービス」（3.7％）、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象とした、掃除・洗濯や外出時の援助など日常生活のお手伝いをするサービス」（3.5％）が続いている。



14- (2) 今後利用したいサービス

問44 日常生活の不便さを解消するために、今後利用してみたい（引き続き利用したい）と思うサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

○今後利用してみたいサービスは、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」（27.7%）が特に多く、次に「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象とした、掃除・洗濯や外出時の援助など日常生活のお手伝いをするサービス」（19.2%）、「弁当を自宅に配達するサービス」（18.8%）が続いている。また、「特にない」（39.9%）との回答が約4割ある。

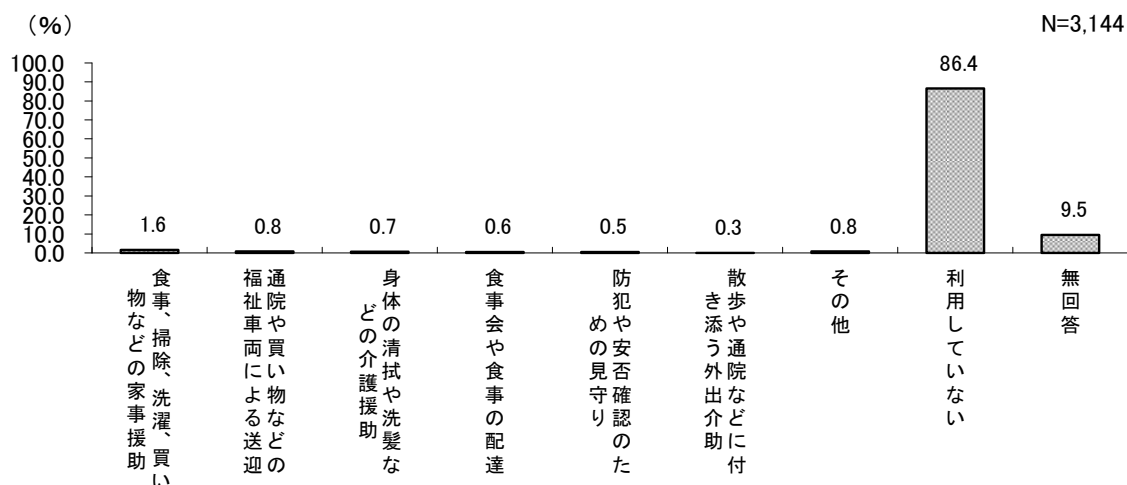


14-（3）現在利用しているサービス（介護保険のサービスを除く）

問 45 ご近所やお住まいの地域、NPOやボランティアの方々によるサービス（介護保険のサービスは除く）の利用状況と利用意向についてお聞きます。

（1）現在利用しているサービスはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

○介護保険のサービス以外で現在利用しているサービスについては、「利用していない」（86.4%）との回答が最も多く8割以上ある。現在サービスを利用している方のなかでは、「食事、掃除、洗濯、買い物などの家事援助」（1.6%）が多く、次に「通院や買い物などの福祉車両による送迎」（0.8%）、「身体の清拭や洗髪などの介護援助」（0.7%）と続くが、いずれも1.0%前後である。

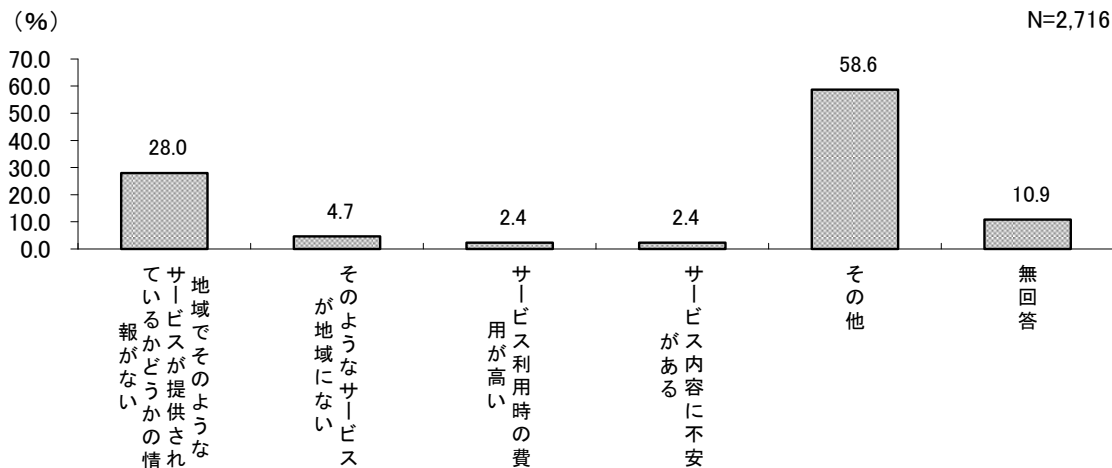


14-（4）サービス（介護保険のサービスを除く）を利用しない理由

【（1）で「利用していない」と回答した方におたずねします】

（2）利用していない理由は次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

○利用していない理由は、「地域でそのようなサービスが提供されているかどうかの情報がない」（28.0%）が特に多く、次に「そのようなサービスが地域にない」（4.7%）が続いている。



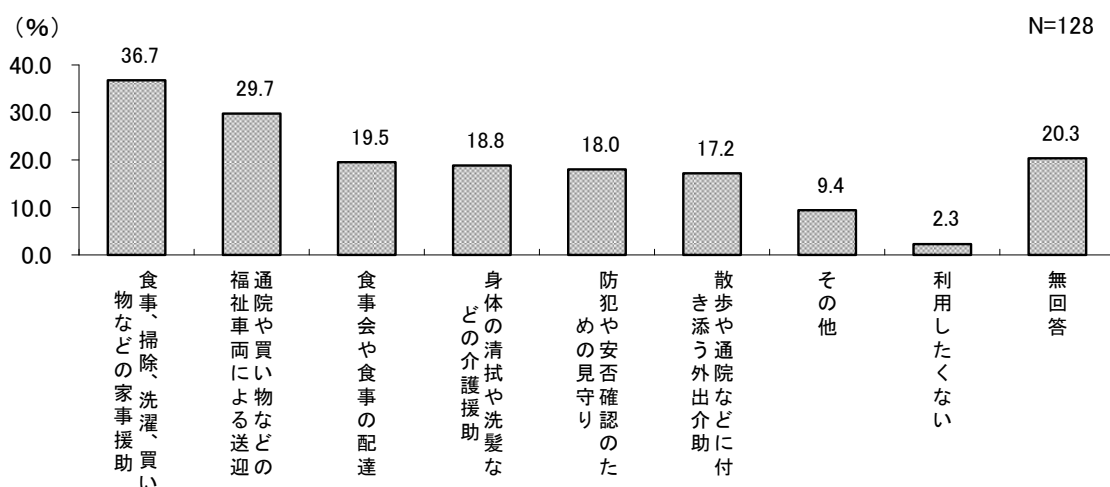
14-（5）今後利用したいサービス（介護保険のサービスを除く）

【（1）で「利用していない」以外に回答した方におたずねします】

（3） 今後利用したい（引き続き利用したい）と思うサービスはどれですか

（あてはまるものすべてに○）

○今後利用したいサービスは、「食事、掃除、洗濯、買い物などの家事援助」（36.7%）が最も多く、次に「通院や買い物などの福祉車両による送迎」（29.7%）、「食事会や食事の配達」（19.5%）が続いている。

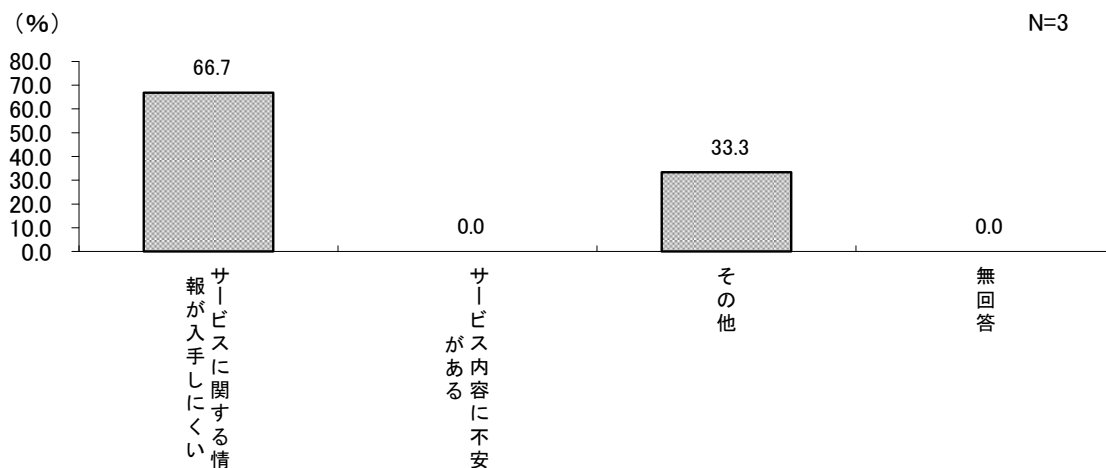


14-（6）今後サービス（介護保険のサービスを除く）を利用しない理由

【（3）で「利用したくない」と回答した方におたずねします】

（4） 利用したくない理由は次のうちどれですか（あてはまるものすべてに○）

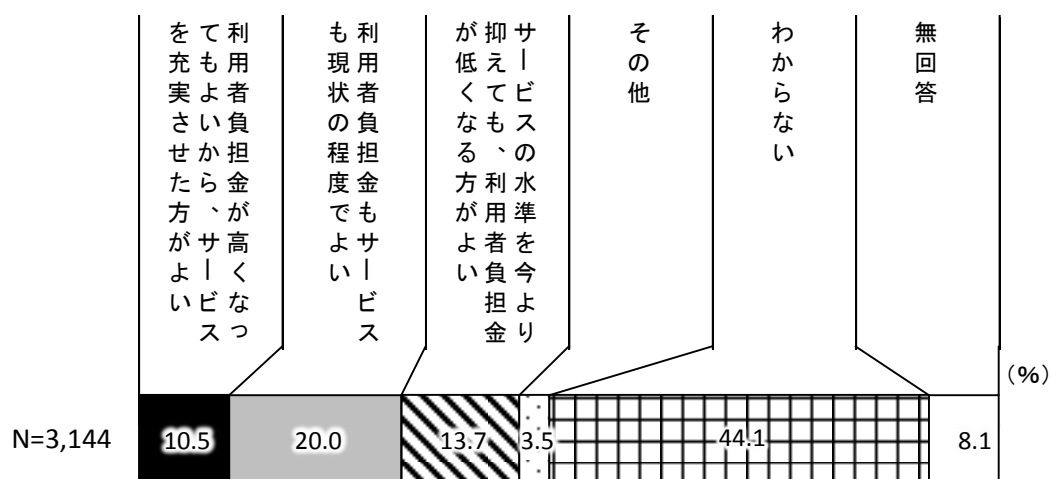
○利用したくない理由については、「サービスに関する情報が入手しにくい」（66.7%）が最も多くなっている。



14-（7）高齢者福祉サービスの利用者負担金について

問 46 介護保険以外の高齢者福祉サービスを利用するにあたって、一定程度の利用者負担金を頂いている場合がありますが、この利用者負担金について、ご本人の考えに最も近いものは、次のうちどれですか。（あてはまるもの1つに○）

○介護保険以外の高齢者福祉サービスの利用者負担金についての考えは、「利用者負担金もサービスも現状の程度でよい」（20.0%）が特に多く、次に「サービスの水準を今より抑えても、利用者負担金が低くなる方がよい」（13.7%）、「利用者負担金が高くなってもよいから、サービスを充実させた方がよい」（10.5%）が続いている。また、「わからない」（44.1%）が4割以上を占めている。



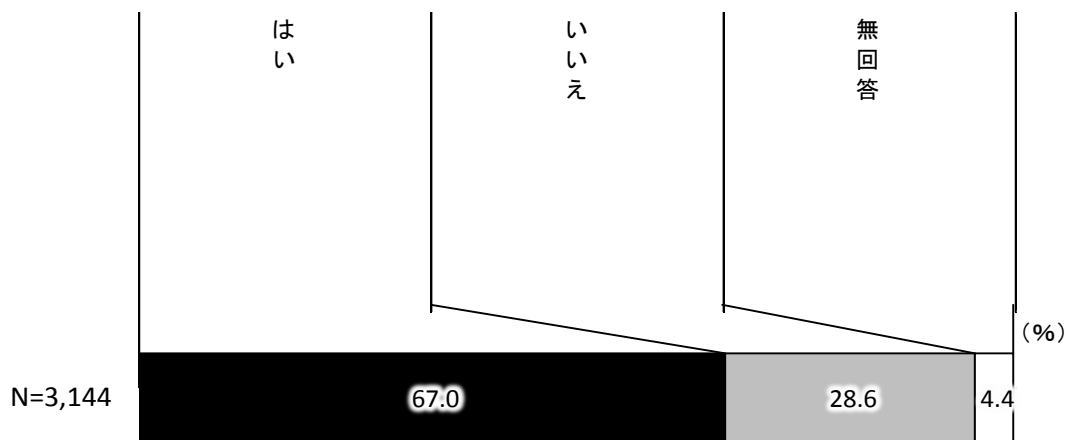
15 介護予防について

15－（１）介護予防の認知度

問 47 「介護予防」という言葉を聞いたことがありますか。（あてはまるもの 1 つに〇）

※ 「介護予防」とは、介護を受ける状態になることをできる限り防ぎ、または遅らせ、そして介護を受ける状態になってもその悪化をできる限り防ぐよう、取り組むことをいいます。

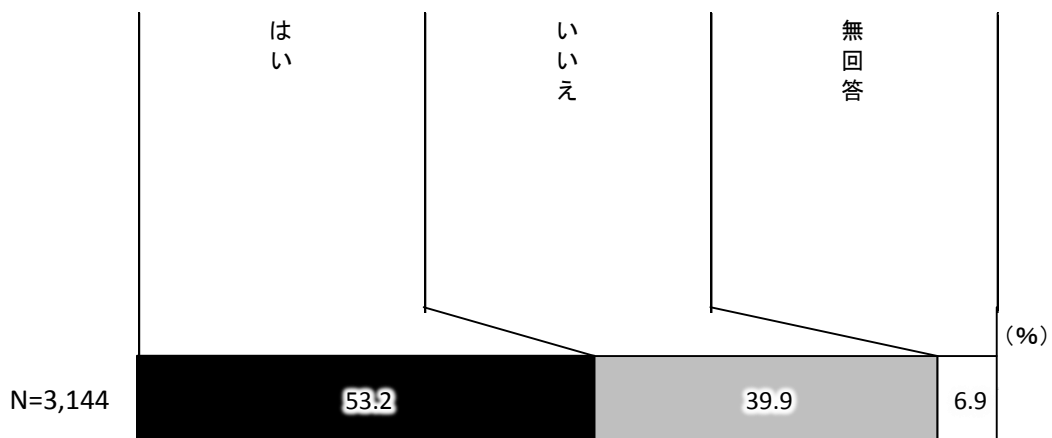
○「介護予防」という言葉については、聞いたことがある人が 67.0%と 6 割以上を占め、聞いたことがないという人は 28.6%である。なお、聞いたことがある人は、前回調査（平成 22 年度）より 2.8 ポイント高くなっている。



15－（２）介護予防についての取り組み状況

問 48 介護予防について、何か取り組んでいることはありますか。（あてはまるもの 1 つに〇）

○介護予防に関する取り組みについては、取り組んでいる人が 53.2%と 5 割以上を占め、取り組んでいない人が 39.9%と約 4 割であり、前回調査（平成 22 年度）と、ほぼ同様の結果となっている。

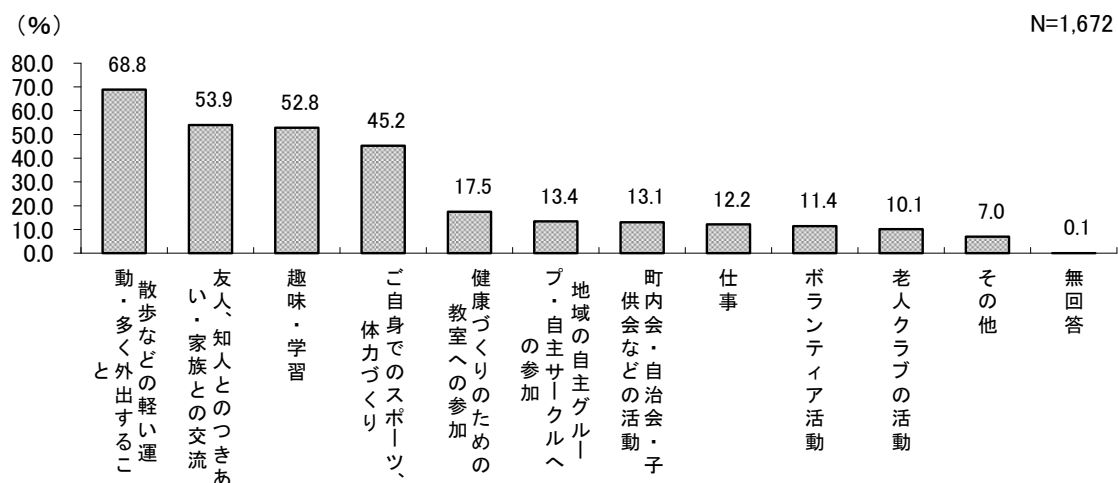


15- (3) 介護予防のために取組んでいること

【問48で「はい」と回答した方におたずねします。】

問49 介護予防として今取り組んでいることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

○介護予防として今取り組んでいることは、「散歩などの軽い運動・多く外出すること」(68.8%)が最も多く、次に「友人、知人とのつきあい・家族との交流」(53.9%)、「趣味・学習」(52.8%)が続いている。

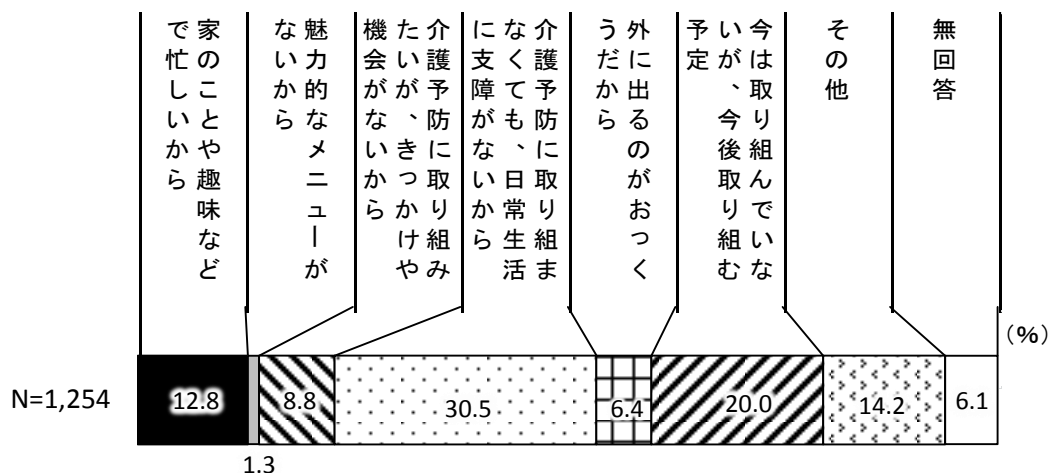


15- (4) 介護予防に取り組まない理由

【問48で「いいえ」と回答した方におたずねします。】

問50 介護予防について、取り組まない理由は何ですか。(あてはまるもの1つに○)

○介護予防に取り組まない理由は、「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」が30.5%で最も多く、次に「今は取り組んでいないが、今後取り組む予定」(20.0%)、「家のことや趣味で忙しいから」(12.8%)などが続いている。

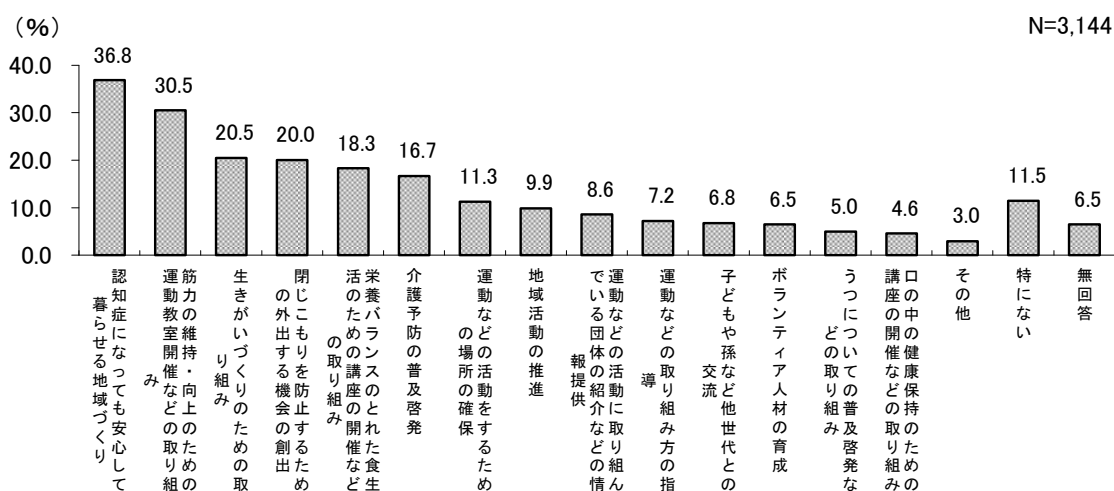


15－（5）介護予防として仙台市に力を入れて欲しいこと

問 51 いつまでも自立していきいきと生活するには、介護予防に取り組むことが重要となります。今後仙台市に力を入れて欲しい取り組みは、次のうちどれですか。

（あてはまるもの3つまでに〇）

○介護予防として仙台市に力を入れて欲しいことは、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」（36.8%）が最も多く、次に、「筋力の維持・向上のための運動教室開催などの取り組み」（30.5%）、「生きがいづくりのための取り組み」（20.5%）が続いている。



16 認知症対策について

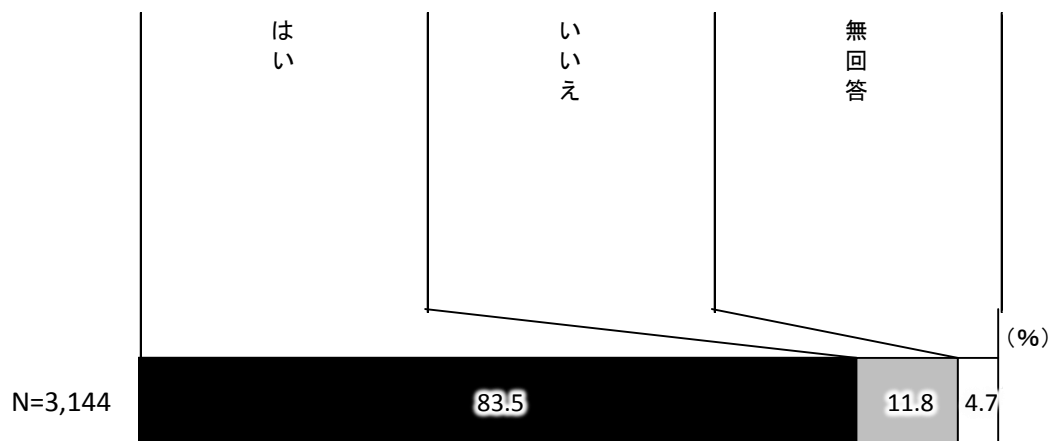
16- (1) 5分前のことが思い出せるか

問 52 日常生活での物忘れについてお聞きします。

((1)～(3) それぞれあてはまるもの 1つに○)

(1) 5分前のことが思い出せますか。

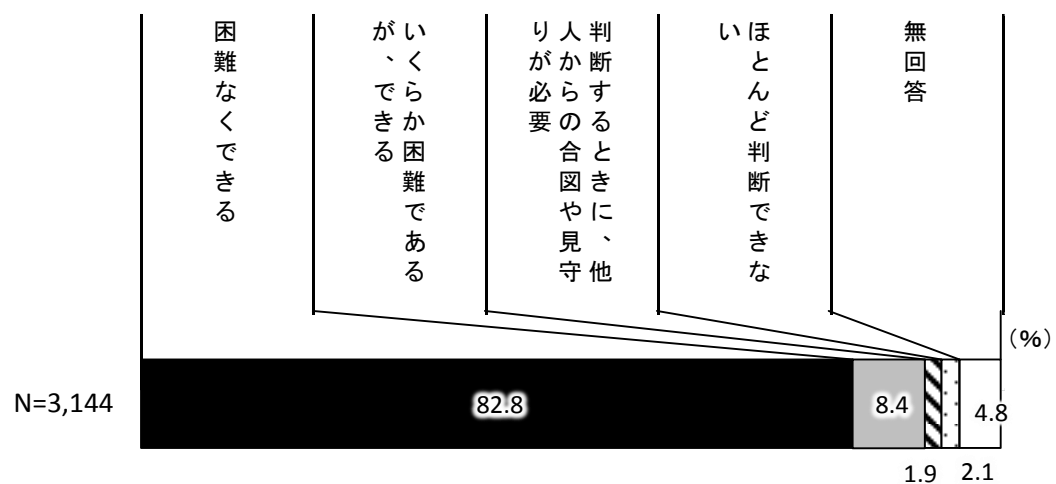
○5分前のことが思い出せるかについては、「はい」と回答した人が83.5%と8割を超えており、「いいえ」と回答した人は11.8%である。



16- (2) その日の活動を自分で判断できるか

(2) その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。

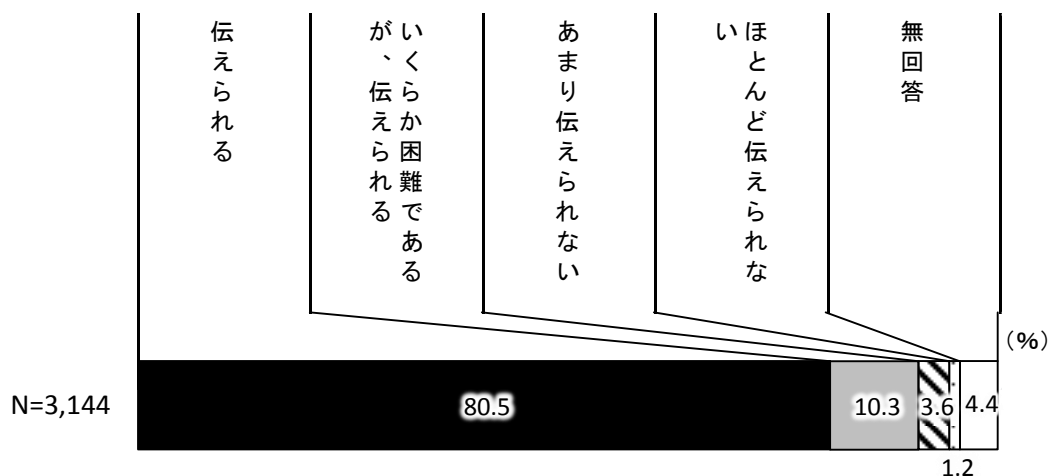
○その日の活動を自分で判断できるかについては、「困難なくできる」(82.8%)と「いくらか困難であるが、できる」(8.4%)を合わせた『できる』が91.2%と9割以上を占める。



16－（3）人に自分の考えをうまく伝えられるか

（3）人に自分の考えをうまく伝えられますか。

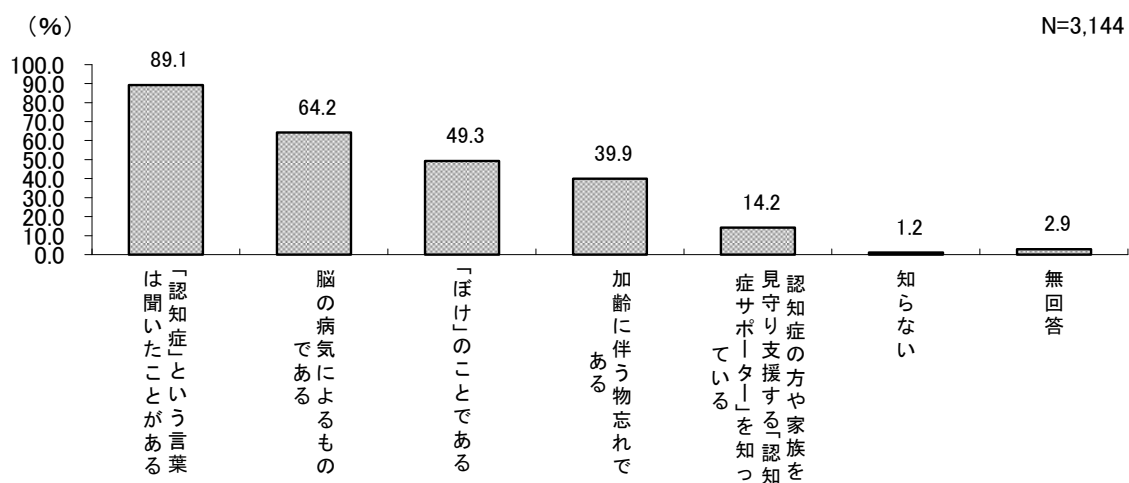
○人に自分の考えをうまく伝えられるかについては、「伝えられる」(80.5%)と「いづらか困難であるが、伝えられる」(10.3%)を合わせた『伝えられる』が90.8%と9割以上を占める。



16－（4）認知症について知っていること

問53 認知症について知っていることをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

○認知症についての認知度は、「認知症」という言葉は聞いたことがある」が89.1%と9割を超えて最も多く、次に「脳の病気によるものである」(64.2%)、「「ぼけ」のことである」(49.3%)が続いている。また、「認知症の方や家族を見守り支援する「認知症サポーター」を知っている」と回答した人は14.2%である。

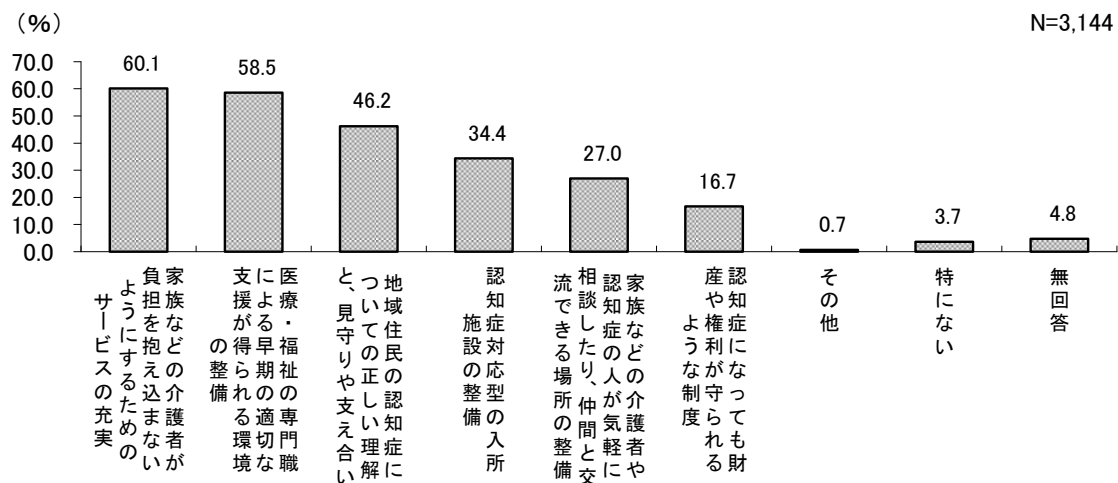


16- (5) 認知症になっても安心して生活するために必要なこと

問 54 認知症になっても安心して生活するには、どのようなことが必要と考えますか。

(あてはまるもの3つまでに〇)

〇認知症になっても安心して生活するために必要なことは、「家族などの介護者が負担を抱え込まないようするためのサービスの充実」が 60.1%、「医療・福祉の専門職による早期の適切な支援が得られる環境の整備」が 58.5%と、これら 2 つの理由が特に多い。次に「地域住民の認知症についての正しい理解と、見守りや支え合い」(46.2%)、「認知症対応型の入所施設の整備」(34.4%)、
「家族などの介護者や認知症の人が気軽に相談したり、仲間と交流できる場所の整備」(27.0%)、
「認知症になっても財産や権利が守られる制度」(16.7%)、
「その他」(0.7%)、
「特にない」(3.7%)、
「無回答」(4.8%)が続いている。

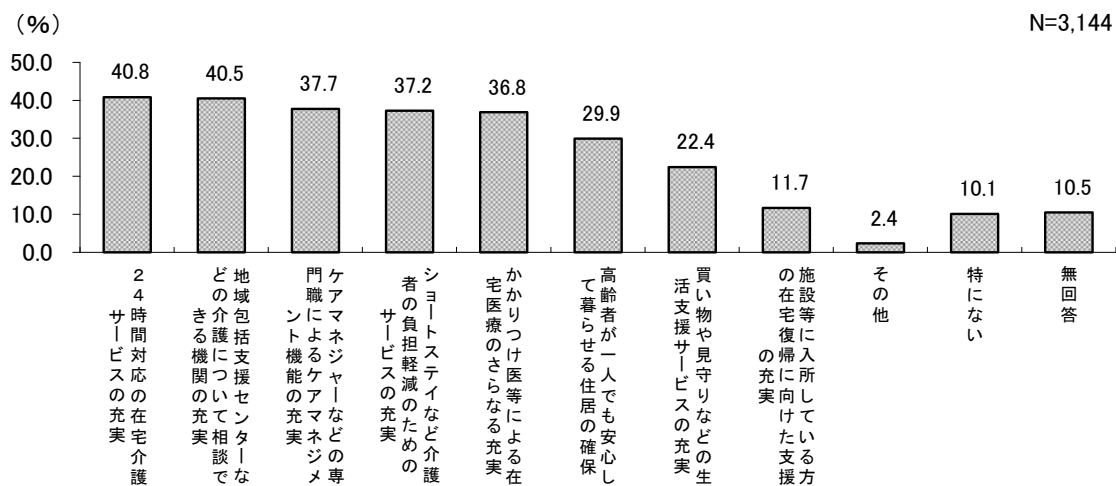


17 地域包括ケアシステムの構築について

17-（1）地域包括ケアシステムの構築のために必要なこと

問 55 現在、国や仙台市では、要介護状態になってもできるだけ在宅（住み慣れた地域）で暮らしていくことができる社会（地域包括ケアシステムの構築）を目指して施策を進めています。今後、高齢者の増加に伴い、要介護者も増えていく中で、本人の希望に沿いながら、できるだけ在宅で暮らしていけるようになるには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

○要介護状態になってもできるだけ在宅で暮らしていくことができる社会（地域包括ケアシステムの構築）を目指すために必要なことは、「24 時間対応の在宅介護サービスの充実」（40.8%）が最も多く、次に「地域包括支援センターなどの介護について相談できる機関の充実」（40.5%）、「ケアマネジャーなどの専門職によるケアマネジメント機能の充実」（37.7%）、「ショートステイなど介護者の負担軽減のためのサービスの充実」（37.2%）、「かかりつけ医等による在宅医療のさらなる充実」（36.8%）、「高齢者が一人でも安心して暮らせる住居の確保」（29.9%）、「買い物や見守りなどの生活支援サービスの充実」（22.4%）、「施設等に入所している方の在宅復帰に向けた支援の充実」（11.7%）、「その他」（2.4%）、「特になし」（10.1%）、「無回答」（10.5%）が続いている。



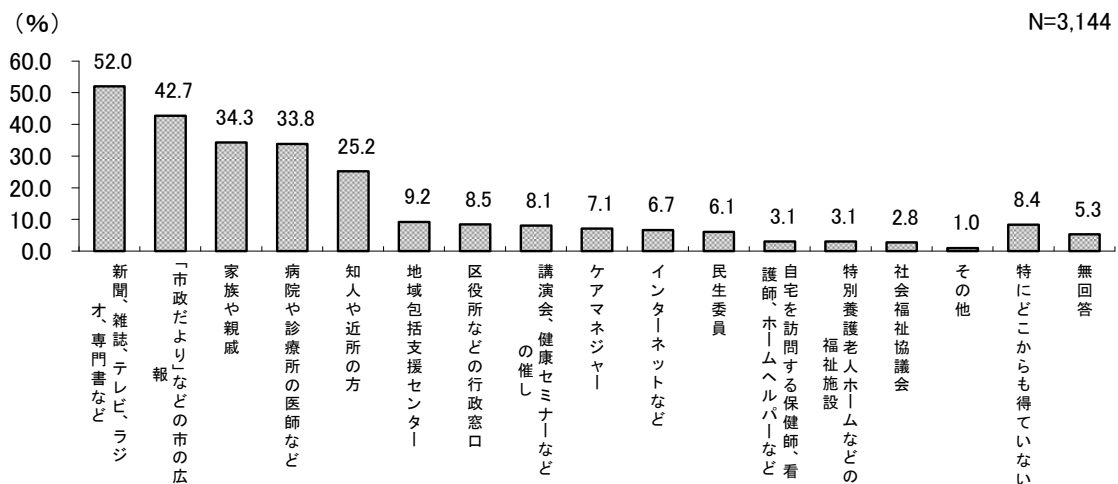
18 健康や福祉について

18－（１）健康や福祉に関する情報の入手先

問 56 ご本人に関係する健康や福祉の情報は、どこから得ていますか。

（あてはまるものすべてに○）

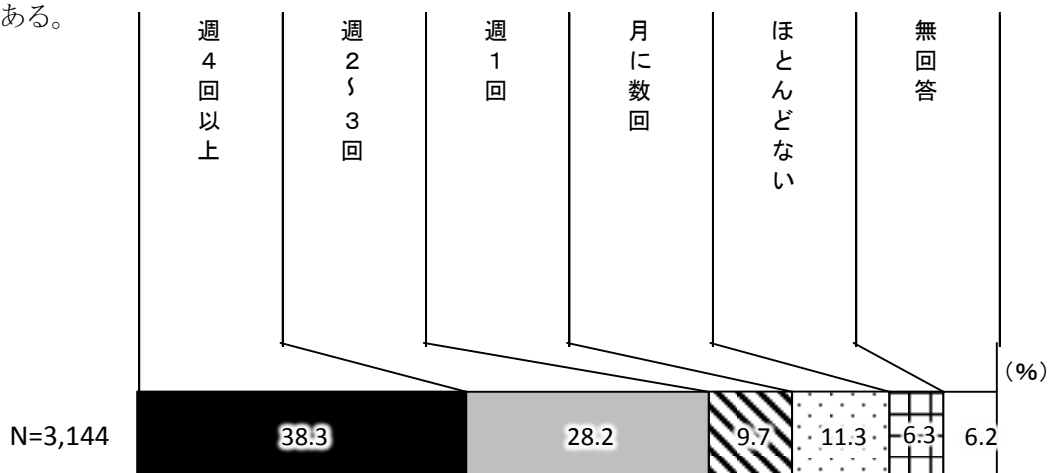
○健康や福祉に関する情報源は、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、専門書など」（52.0％）が最も多く、次に「「市政だより」などの市の広報」（42.7％）、「家族や親戚」（34.3％）、「病院や診療所の医師など」（33.8％）が続いている。なお、前回調査（平成22年度）では、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、専門書など」（48.4％）、「病院や診療所の医師など」（41.0％）、「家族や親戚」（37.4％）、「「市政だより」などの市の広報」（34.0％）の順であり、「病院や診療所の医師など」が7.2ポイント減少した一方で、「「市政だより」などの市の広報」が8.7ポイント増加している。



18－（２）家族以外との会話の頻度

問 57 普段、どれくらいの頻度で、同居している家族以外の方々と話しをしますか。（挨拶程度は含まない）（あてはまるもの１つに○）

○同居している家族以外との会話については、「週4回以上」（38.3％）が最も多く、次に「週2～3回」（28.2％）、「月に数回」（11.3％）が続いている。また、「ほとんどない」という人が6.3％である。



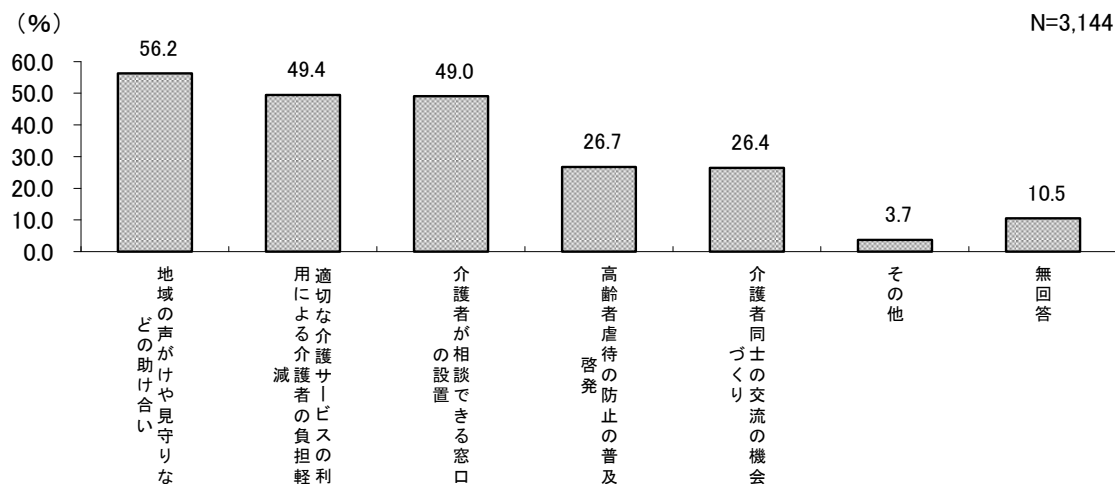
19 高齢者虐待防止について

19-（1）高齢者に対する虐待の防止のために必要な取り組み

問 58 最近、高齢者に対する虐待についての関心が高まっており、その防止のための取り組みが必要となっています。

高齢者に対する虐待が起きないための取り組みとして必要だと思うことは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

○高齢者虐待防止のために必要な取り組みは、「地域の声かけや見守りなどの助け合い」（56.2%）が最も多く、次に「適切な介護サービスの利用による介護者の負担軽減」（49.4%）、「介護者が相談できる窓口」（49.0%）が続いている。



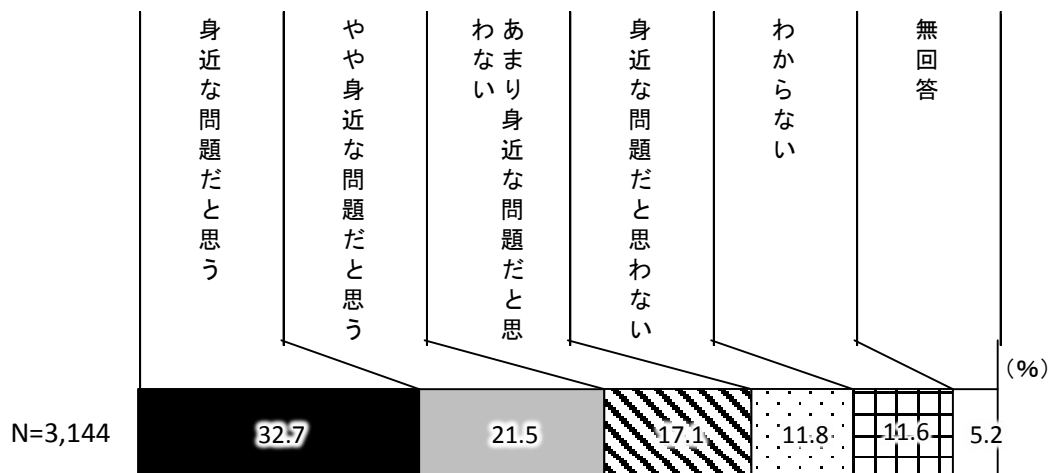
20 孤立死について

20-（1）孤立死に対する考え

問 59 孤立死について、どのように考えますか。（あてはまるもの1つに〇）

※ ここでいう「孤立死」とは、誰にも看取られることなく息を引き取り、その後、相当期間放置されるような状態のことをいいます。

○孤立死についての考えは、「身近な問題だと思う」(32.7%)と「やや身近な問題だと思う」(21.5%)を合わせた、身近な問題と感じている人の割合が54.2%と5割以上を占める。一方で、「あまり身近な問題だと思わない」(17.1%)と「身近な問題だと思わない」(11.8%)を合わせた、身近な問題と感じていない人の割合は28.9%と約3割である。いずれも、前回調査（平成22年度）と、ほぼ同様の結果となっている。

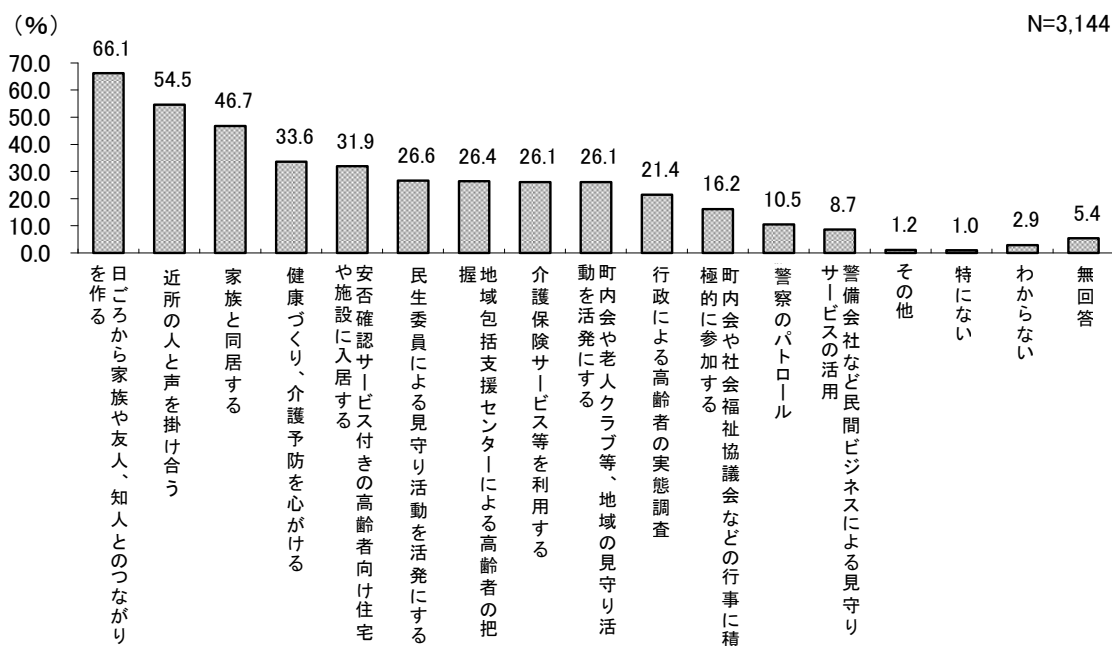


20－（2）孤立死を防ぐために有効な手段

問 60 孤立死を防ぐためにどのようなことが有効だと思いますか。

（あてはまるものをすべてに○）

○孤立死を防ぐために有効な手段は、「日ごろから家族や友人、知人とのつながりを作る」(66.1%)が最も多く、次に「近所の人と声を掛け合う」(54.5%)、「家族と同居する」(46.7%)などが続いている。前回調査（平成22年度）と比べると、ほとんどの項目で増えているが、「家族と同居する」は4.1ポイント低くなっている。

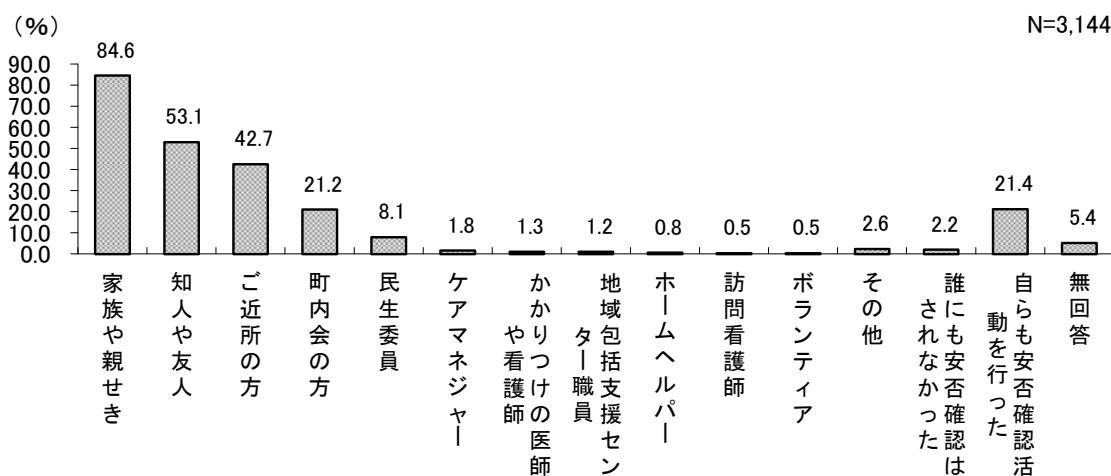


21 災害時の安否確認について

21-（1）東日本大震災時の安否確認について

問 61 平成 23 年 3 月に東日本大震災が発生したときに、誰かに安否確認をしてもらいましたか。（あてはまるものすべてに○）

○東日本大震災時の安否確認については、「家族や親せき」が 84.6%と 8 割を超えて最も多く、次に「知人や友人」(53.1%)、「ご近所の方」(42.7%)が続いている。また、「自らも安否確認活動を行った」と回答した人は 21.4%である。



21-（2）誰に安否確認をしてほしいか

問 62 地震などの災害が起きた場合、誰に安否確認をしてもらうのがよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

○災害時の安否確認については、「家族や親せき」(89.2%)が約 9 割と最も多く、次に「ご近所の方」(63.3%)、「知人や友人」(54.7%)が続いている。

